

平成25年度 教員個人評価の集計・分析報告書

佐賀大学大学院工学系研究科

評価委員会

平成26年9月

目 次

平成 25 年度教員個人評価について.....	1
1. 教員個人評価の実施状況.....	3
1.1. 対象教員数, 個人評価実施者数, 実施率など.....	3
1.2. 教員個人評価の実施概要.....	3
1.2.1. 評価組織.....	3
1.2.2. 実施経緯, 内容, 方法等.....	3
1.2.3. 添付資料.....	5
2. 工学系研究科, 理工学部教員ならびに職員 (教育研究支援職員及び事務系職員) が組織的に一丸となって行った教育研究活動等.....	6
3. 評価領域別の集計及び分析.....	7
3.1. 教育の領域.....	7
3.1.1. 講義担当等に関する事項.....	7
3.1.2. 教育改善に関する事項.....	9
3.1.3. 教育研修・FD に関する事項.....	13
3.1.4. オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項.....	16
3.1.5. 学生の受賞等.....	17
3.2. 研究の領域.....	19
3.2.1. 著書, 論文等の発表実績.....	19
3.2.2. 共同研究などに関する活動実績.....	21
3.2.3. 受賞等の実績.....	23
3.3. 国際・社会貢献の領域.....	24
3.3.1. 国際交流実績.....	24
3.3.2. 社会貢献実績.....	25
3.4. 組織運営の領域.....	29
4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価.....	31
4.1. 各領域における自己点検評価点ならびに達成度.....	31
4.2. 評価領域に関する自己点検評価点のヒストグラム.....	33
4.3. 評価委員からのコメント.....	41

平成 26 年度工学系研究科評価委員会委員

平成 25 年度教員個人評価について

大学院工学系研究科における教員の個人評価は、各教員から提出された個人目標申告書、活動実績報告書及び自己点検・評価書を基に、大学院工学系研究科評価委員会の下に置かれた大学院工学系研究科個人評価実施委員会において行うこととされ、本報告書は平成 25 年度分について評価を実施し、その結果を取りまとめたものです。

教員自己点検・評価は、教育、研究、国際交流・社会貢献、及び組織運営の 4 つの領域ごとの活動状況評価と総合評価を、それぞれ 5 段階の評価点を付与して教員が行います。そして、個人評価実施委員会は、教員の資質向上と諸活動の活性化、並びに本学及び本研究科と学部との目標達成に向けた活動という観点からそれら評価点の妥当性を点検しました。

平成 25 年度の工学系研究科・理工学部の取り組みについて、教育、研究、社会貢献の特色を以下に整理します。学生が記入するラーニングポートフォリオに対するチューター教員の指導記録は個人面談の記録も含め着実に対応が浸透していますが、学生の入力率の更なる向上に向けた指導が必要です。

学修意欲が高く優秀な学生の会である「STEPs」を通じた海外研修は「文化の違いを理解しグローバルの意味」を考える機会を与えています。また、問題を抱える学生に対しては、早期の気づきを心掛け、佐賀大学保健管理センターと学生生活課のソーシャルワーカーと連携したアウトリーチケアを行っています。

また、教員が作成するティーチングポートフォリオ（簡易型も含む）についても研修会の開催により、年次計画に従って作成率が着実に向上していますが、作成率 100%を早期に達成し、教育の質保証の基盤を整える必要があります。未作成教員への作成指導と簡易版から標準版へのグレードアップを要請する予定です。

知能情報システム学科、機能物質化学科、機械システム工学科および電気電子工学科の 4 学科は日本技術者教育認定機構（JABEE）認定（継続認定も含む）を受けています。本年度は機械システム工学科が更新審査を受診しましたが、教育の質保証を担保する教育システムの認証において教員の労力が増加して来ています。

研究に関しては、教員個人の取り組みを重視し、科学研究費助成事業への応募、採択の向上に努めています。さらに、各種の研究助成への応募を進めると共に、研究科長経費に基づく工学系研究科の特色と強みをさらに高めるグループ研究プロジェクト（大学院生を含む）支援と若手教員への研究助成を続けています。その成果は学術論文などを通じて発表され、教員のみならず、大学院生の受賞にも繋がり教育的効果もあげています。

社会貢献については、佐賀県工業連合会（県工連）と連携した「工学系高度人材育成コンソーシアム佐賀」を軸とした人材育成活動（インターンシップ、企業見学、大学研究室見学、企業トップ経営者によるキャリア講演会など）を行っています。本年度からはアクティブ・

ラーニングの一つであるPBL(Problem Based Learning)を県工連の協力を得て機械システム工学科で実施しました。来年度に他学科に広がることが期待されます。また、国や地方自治体の各種委員会における学識委員や専門委員として多数の教員が参加し、地域の発展に寄与しています。

これらの取組みは、理工学部学士課程の教育の質保証、大学院工学系研究科における研究の実践による技術イノベーション創成、理工系人材の育成、地域貢献とグローバル化推進を象徴するものです。このような諸活動は工学系研究科の教員と職員、そして学生の皆様が設定した目標に向かって邁進する力に支えられています。今後も、継続した活動が教員個々に求められています。

昨年11月には「国立大学改革プラン」が文科省から公表されました。12月には工学分野の、本年3月には理学分野の工学系研究科・理工学部のミッションの再定義が確定し公表されました。本報告書が公表される時点では第2期の点検が始まり第3期に向けた佐賀大学の改革が加速することになります。理工学部と工学系研究科も組織改編に向けて動き始めています。本報告書を手にしておられる理工学部後援会、佐賀大学同窓会、佐賀大学校友会、卒業生、修了生をはじめとした工学系研究科・理工学部のステークホルダの皆様のご意見等は改革と実行の原動力になります。教員の不断の自己研鑽と社会的要請に対応できる組織再編と制度の改革を進めることが工学系研究科・理工学部の存続と発展に資するものと確信しています。皆様のご指導とご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

工学系研究科長・理工学部長
石橋孝治

1. 教員個人評価の実施状況

1.1. 対象教員数，個人評価実施者数，実施率など

大学院工学系研究科（博士前期課程と博士後期課程）所属の教員（教授，准教授，講師，助教）に対して，別紙様式1～4に関して教員個人評価を実施し，下記表のとおり回答を得た（回答率 99.3%）。（平成 26.5.30 現在）

専攻	対象教員数	実施率(%)
数理科学専攻	11	100
物理科学専攻	13	100
知能情報システム学専攻	16	100
循環物質化学専攻	21	100
機械システム工学専攻	17	100
電気電子工学専攻	17	100
都市工学専攻	21	100
先端融合工学専攻	20	95
工学系研究科（合計）	136	99.3

1.2. 教員個人評価の実施概要

1.2.1. 評価組織

工学系研究科（理工学部）評価委員会ならびに工学系研究科（理工学部）個人評価実施委員会

1.2.2. 実施経緯，内容，方法等

① 平成 26 年 3 月 5 日

- 研究科長から，全教員に対し，評価基礎情報データシステム入力について依頼した。

② 平成 26 年 3 月 11 日

- 研究科長は，全教員に対し平成 25 年度活動の自己点検・評価を依頼し，別紙様式 1，3，4 を 3 月 20 日から 4 月 18 日までの間に提出を依頼した。

同時に，平成 26 年度の各様式もメールにて送付し，別紙様式 1（平成 26 年度活動の「個人目標申告書」）の作成・提出も併せて依頼した。

③ 平成 26 年 4 月 1 日

- 情報企画委員会委員長から、全教員に対し、評価基礎情報データシステム入力について依頼した。
- ④ 平成 26 年 4 月 9 日 評価委員会開催
- 平成 25 年度教員個人評価のスケジュールを決定した。
 - 平成 25 年度教員個人評価集計と分析報告書（様式）について決定した。
 - 工学系研究科個人評価用集計シート及び理工学部・工学系研究科個人業績集約方法の様式を決定した。
- ⑤ 平成 26 年 5 月 7 日
- 「個人評価用集計シート」「個人評価用集計ツール」「個人業績集約の方法」を各専攻長に配布した。
- ⑥ 平成 26 年 5 月 8 日
- 研究科長は、各教員から提出された平成 25 年度の各様式（1. 3. 4）を各専攻長に送付した。また、同時に「平成 25 年度教員個人評価（専攻）集計と分析報告書」の様式も送付し、同報告書の作成を依頼した。（USB メモリーを手渡した。）
- ⑦ 平成 26 年 5 月上旬から 5 月下旬
- 各専攻長は、別紙様式 1、サーバーにアップロードされた評価基礎情報データシステム及び別紙様式 3 に基づいて、本学及び本研究科の目標達成に向けた活動という観点から審査し、これらを基に評価を行い、評価結果を、別紙様式 4（平成 25 年度の「個人評価結果」）に記載の上、5 月末までに別紙様式 1・3 を含め、研究科長宛に送付することになった。
また、同時に、各専攻長は、平成 25 年度の個人評価結果について、各専攻の集計と分析を行い、その結果を、「平成 25 年度教員個人評価（専攻）集計と分析報告書」に記載し、研究科長へ提出した。（専攻長は、USB メモリーと印刷物（ペーパー）を研究科長へ手渡した。）
- ⑧ 平成 26 年 6 月初旬
- 研究科長は、工学系研究科個人評価実施委員会に対し、個人評価結果の審査を付託した。
- ⑨ 平成 26 年 6 月中旬
- 同委員会は、本学及び本研究科の目標達成に向けた活動という観点から審査し、その結果を研究科長へ報告した。
- ⑩ 平成 26 年 7 月中旬～下旬
- 研究科長は、別紙様式 1、サーバーにアップロードされた評価基礎情報データシステム及び別紙様式 3 「自己点検・評価書」に基づいて、本学及び本研究科の目標達成に向けた活動という観点から審査し、別紙様式 4（平成 25 年度「個人評価結果」）の評価内容を確認し必要があれば、評価結果の補足等及び研究科長

コメントを記載することとなった。

- なお、研究科長は、審査にあたり、審査の公平性を確保するために、必要に応じ、他の職員から意見を求めることとなった。

また、研究科長は、必要に応じ、評価内容について、当該教員から意見を聴取することになった。

⑪ 平成 26 年 9 月 5 日

- 研究科長は、自己点検・評価書に評価結果を記入した別紙様式 4（平成 24 年度「個人評価結果」）を、当該教員に封書で通知した。その際、専攻毎の平成 24 年度教員個人評価集計と分析報告書を添付した。

⑫ 平成 26 年 9 月 5 日

- 各教員は、個人評価の結果に対して異議がある場合は、通知後 2 週間以内（9 月 19 日まで）に異議申立書（様式任意）を研究科長に提出することとなった。

⑬ 平成 26 年 9 月下旬

- 研究科版の平成 25 年教員個人評価集計・分析報告書（案）を取り纏めた。

⑭ 平成 26 年 9 月下旬

- 研究科長は、研究科版の教員個人評価集計・分析報告書を作成し、工学系研究科評価委員会に対し、本研究科の教員個人評価結果の総合的な検討を付託する。

⑮ 平成 26 年 9 月 25 または 26 日

- 評価委員会は、本研究科の教員個人評価結果の総合的な検討を行い、同報告書を承認し、その結果を研究科長に報告する。

⑯ 平成 26 年 10 月上旬

- 研究科長は、「教員個人評価集計・分析報告書」を添えて工学系研究科教員の個人評価結果を学長に報告する。

1.2.3. 添付資料

佐賀大学大学評価の実施に関する規則（平成 17 年 3 月 1 日制定）

佐賀大学大学院工学系研究科における教員の個人評価に関する実施基準

「大学院工学系研究科における個人達成目標の指針」（教員用）

個人目標申告書（別紙様式 1）

教員報告書（別紙様式 2）：工学系研究科・理工学部教員活動実績年次報告書（推奨様式）に読み替え

自己点検・評価書（別紙様式 3）

個人評価結果（別紙様式 4）

2. 工学系研究科，理工学部教員ならびに職員（教育研究支援職員及び事務系職員）が組織的に一丸となつて行つた教育研究活動等

はじめに，工学系研究科教員ならびに職員が組織的に一丸となつて行つた教育研究活動等を以下に示す．

- 工学系研究科国際パートナーシップ教育プログラム（平成 16 年度より）：相手国：中国，韓国，ベトナム，インドネシアなど
 - ▶ 数理学専攻，物理学専攻，循環物質化学専攻，機械システム工学専攻，電気電子工学専攻，都市工学専攻，先端融合工学専攻の教員が参画
- 大学院地球環境科学特別コース
 - ▶ 数理学専攻，物理学専攻，知能情報システム学専攻，循環物質化学専攻，機械システム工学専攻，電気電子工学専攻，都市工学専攻，先端融合工学専攻，システム創成科学専攻（後期課程）の教員が参画
- 大学院戦略的国際人材育成プログラム(SIPOP)：
 - ▶ 佐賀大学大学院に博士後期課程を有する研究科の教育プログラムである．学術交流協定に基づいて実施されている国際共同研究や国際共同教育を強化し，佐賀大学特有の実質的な国際活動を発展させるために，佐賀大学独自に奨学金制度（佐賀大学奨学金留学制度）を設け，アジア諸国から外国人留学生を博士後期課程に受入れるものである．工学系研究科博士後期課程の教員が参画
- 平成 25 年度佐賀大学短期留学プログラム（SPACE）（平成 13 年度より）：
 - ▶ 佐賀大学の交流協定校に所属する学生を対象とした短期留学プログラムで，日本語コース（SPACE-J：学部生および修士課程の院生が対象）と，英語コース（SPACE-E：学部生のみが対象）がある．佐賀大学での学習や研究，また日本人学生や地域の人々とのふれあいを通じて，日本社会についての知識や理解を深める．学生の受け入れや講義を担当
- 高等学校ジョイントセミナー，出張講義等
- 環境美化エコ活動
 - ▶ 平成 25 年度省エネルギー活動：夏季ピーク電力の抑制策：7 月，8 月期ならびに 12 月，1 月期の空調断続運転
 - ▶ 定期的なキャンパス環境美化デーにおける一斉清掃

3. 評価領域別の集計及び分析

3.1. 教育の領域

3.1.1. 講義担当等に関する事項

表 3.1 に教員の担当科目数（学部，修士），担当コマ数（半期当り換算），卒業研究指導学生数，修士特別研究指導学生数，博士研究指導学生数（主指導）の平均値を表している。

表 3.1 教員 1 人当たりの講義担当，指導学生数

専攻	職種	学部 (教養教育科目を含む)			大学院			
		担当 科目 数/ 教員	担当 コマ 数	卒研 学生 指導 数	担当 科目 数/ 教員	担当 コマ 数	修士 学生 指導 数	博士学 生指導 数
数理科学専攻	教授	3.9	3.9	3.0	1.6	1.6	1.9	0.6
	准教授 (含講師)	3.8	3.8	1.3	1.0	1.0	1.0	0.0
物理科学専攻	教授	5.79	7.07	1.86	2.14	2.01	1.29	0.57
	准教授	4.50	5.57	2.29	2.14	2.33	2.00	0.14
知能情報 システム学専攻	教授	6.13	4.68	3.50	2.25	1.74	1.75	0.75
	准教授	4.00	3.94	4.80	1.60	1.80	1.80	0.20
	助教	1.67	3.11	0.67	-	-	-	-
循環物質化学 専攻	教授	8.30	10.02	3.90	3.95	3.71	2.95	1.00
	准教授	8.14	8.83	3.71	6.00	5.43	3.43	0.29
	助教	6.75	5.98	3.00	1.25	1.05	-	-
機械システム 工学専攻	教授	4.14	4.57	4.86	2.14	2.05	5.00	0.71
	准教授 (含講師)	5.25	5.81	4.38	1.88	1.35	2.00	0.00
	助教	1.50	2.00	2.00	-	-	-	-
電気電子工学 専攻	教授	2.44	2.45	5.20	4.06	4.11	4.80	0.20
	准教授 (含講師)	4.11	5.62	4.00	4.22	3.56	3.11	0.00
	助教	3.00	3.50	0.67	-	-	-	-
都市工学専攻	教授	5.60	5.62	4.10	2.40	2.03	2.50	2.00
	准教授 (含講師)	3.94	4.38	3.11	2.33	2.42	2.22	0
	助教	4.50	5.10	0.50	0.50	0.50	-	-
先端融合工学 専攻	教授	5.60	5.62	4.10	2.40	2.03	2.50	2.00
	准教授	3.94	4.38	3.11	2.33	2.42	2.22	0
	助教	4.50	5.10	0.50	0.50	0.50	-	-

受講生数は教務システムに登録された履修者数
授業担当コマ数は，半期当りに換算する。（通年 1 コマの科目は 2 コマとする。） 1 科
目を複数教員で担当する場合は，実働時間とする。

【数理科学専攻】

- 教授と准教授は概ね同数の授業科目を担当しているが、卒業研究や修士課程の主任指導に関しては教授のほうが多い。

【物理科学専攻】

- 教授は、准教授よりも多くの科目を担当している。(4:3)
- 役職者については、負担の軽減をはかる措置を講じているが、実際はあまり軽減されていない。
- 一部の教員に過重負担のおそれがある。

【知能情報システム学専攻】

- 平成 24 年度は学部教育において、准教授は教授よりも多くの科目を担当していたが、平成 25 年度は、教授は准教授よりも多くの科目を担当している。この原因として、平成 25 年度に 2 名の准教授が、それぞれ 4 月と 11 月に教授へ昇進したことが挙げられる。また、学部教育において、准教授は教授よりも多くの学生を指導しているが、これは昨年度と同じである。
- 准教授の中には、博士後期課程の主旨導の有資格者として博士学生を指導しているものもいる。
- 助教は主に実験指導を担当している。そのため、担当科目数の割には担当コマ数が多い。

【循環物質化学専攻】

- 教授と准教授は、学士課程および大学院博士前期課程の教育を平等に担当するようカリキュラムが組まれており、卒業研究の指導学生数もほぼ同じである。昨年度よりも担当科目数および担当コマ数が増加したのは、実態を正確に反映するように見直したためである。また、助教も卒業研究性を担当し、卒業研究の指導を行っている。
- 教授の修士論文研究主旨導学生数は平均 2.95 名、博士論文研究主旨導学生数は平均 1.00 名である。准教授は、修士論文研究主旨導学生数 平均 3.43 名、博士論文研究主旨導学生数 平均 0.29 名である。教授と准教授の修士論文研究主旨導学生数に差異はない。博士論文研究主旨導は教授が担当しているが、准教授の一部も、博士後期課程の主旨導の有資格者として博士学生を指導している。また、副指導教員となつて、実質指導を行っている教員がいる。
- 助教は主に実験及び演習の指導を担当するとともに、主要科目以外の科目を担当している。このために担当科目数および担当コマ数が多くなっている。卒業研究指導学生数は平均 3.00 名で、さらに、助教は、教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習や生活相談など）を行っていることが報告されている。

【機械システム工学専攻】

- 担当科目数については、教授／准教授ともおおむね同等の科目数を担当しているが、

昨年と比較すれば本年度は准教授の学部講義負担が多いことが改善されている。

- 助教は機械工学実験Ⅰ，機械工学実験Ⅱ，大学入門科目（創造工学入門）などで実験や演習の指導を担当している。

【電気電子工学専攻】

- 一部の准教授・講師は教授よりも多くの科目を担当している。
- 助教は主に実験指導を担当しているが，年間を通じて1コマ程度の学部講義も担当している。実験指導する学生数は平均90人で前期後期を通じて6コマ（半期，3，4，5校時担当）を担当している。更に，助教は，教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習関わる生活相談など）やチューター担当を行っていることが報告されている。

【都市工学専攻】

- 教授は准教授よりも多くの科目，学生の教育を担当している。また，准教授の中には副指導教員となって，実質指導を行っている教員がいる。助教は主に実験指導を担当している。
- 指導する学生数は卒業研究（講師以上）で平均3.7人，修士指導（講師以上）で平均2.4人，博士主任指導（教授）で平均2.0人である。担当する授業コマ数は，学部で年間平均5.1コマ，大学院（講師以上）で年間平均2.2コマである。また，助教は，教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習に関わる生活相談など）も行っていることが報告されている。

【先端融合工学専攻】

- 教授は学部（平均：担当科目数3.8科目），卒研指導学生数4.3名，大学院（平均：担当科目数3.7科目），修士指導学生数3.3名，博士指導学生数1.9名である。
- 准教授は学部（平均：担当科目数4.6科目），卒研指導学生数3.6名，大学院（平均：担当科目数5.9科目），修士指導学生数3.9名，博士指導学生数0名である。
- 助教は主に学部の実験指導を担当している。更に，助教は，教授あるいは准教授の指導支援（学生の学習関わる生活相談など）を行っている。

3.1.2. 教育改善に関する事項

教育改善に関し，工学系研究科各専攻の教員は，次のような取り組み，実践を行っている。

【数理科学専攻】

教育改善に関する努力として，以下の事項が実践されていると記載がある。

- レポート・講義資料の Web ページを作り，授業で使用した資料を掲載した。（准教授）
- 授業科目のアンケート結果を参考にして，授業の改善に努めた。（教授）
- シラバスに従い，できるだけ学生の習熟度に合わせて講義を進めた。また，レポー

- トを提出させることにより、学生の理解を深めた。（教授）
- 自分のホームページにおいて、次年度に予定している卒業研究の他、これまでの卒業研究・特別研究の内容も掲示した。（教授）
 - 授業評価などを行い、講義の改善をした。講義の感想も随時書いてもらった。（教授）
 - 具体例をなるべく取り入れ、基礎的事項を重点的に講義し、学生が抽象的な数学になじめるよう努めた。（准教授）
 - チューター学生との面談を予定通り行った。オフィスアワーと関係なく、相談に来た学生と対応した。（准教授）

【物理科学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- LMS を活用している。（教授）
- グループ学習を取り入れている。（教授）
- テキストなど教材を作成し、学生に提供している。（教授）
- 大学院生には学外での研究発表を行わせている。（教授、准教授）

【知能情報システム学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- スライドと板書の併用を行いながら、両者の良さを生かす授業を工夫した。（准教授）
- TA と学生に対する接し方について議論を重ね、机間巡視や履修者への声掛けなどについて工夫（声をかけるべき学生を決める、発表を促すように解答へ向けたヒントをグループ全体に与える、取組状況をみて机間巡視の位置を決めるなど）を行った。（教授）
- Moodle を用いて講義 HP を運営し、各種のコンテンツ提供、レポートの回収、評価結果のフィードバック等を行った。また、Moodle 版大福帳を活用して、毎回の授業で学生の意見・コメントを収集し、それに回答することでコミュニケーション促進を図った。さらに、また、Wiki を活用してチームでの資料作成および相互レビューを実施した。（准教授）
- 卒業研究のための Moodle コースを設定し、各種の成果物提出、教育コンテンツの提示などに活用した。また、Moodle 版ゼミ用大福帳を運用して、学生相互間のディスカッションの可視化および蓄積・整理を推進した。（准教授）
- 再試験を実施する場合は、自習期間および自習場所を設定し、20 コマ分の自習を義務付けた。これにより、定期試験の平均点に比べて、再試験の点数が大幅に向上した。（教授）
- 講義をすべてビデオカメラで収録し、履修者が復習できるように Web 上で配信した。（教授）
- 博士後期の学生には、査読付き国際会議で発表するように指導した。（教授）
- 学生による授業評価の結果を踏まえて、授業内容がどのように社会で役に立ってい

- るかを説明する時間を増やした。（教授）
- 学生に割り当てた英語文献に関する要約を行わせる際に、Wiki を用いて共同作業を行わせた。これにより、相互の連携が生まれ、成果物の質が向上した。（准教授）
 - 小テスト・確認テストの得点獲得率が60%未満の学生に対して、次回の講義の前日までに宿題を提出させるようにした。（教授）
 - レポート提出状況の悪い学生は保留とし、教官室に呼んで個別指導を行った。（准教授）
 - グループごとに発表をさせ、グループ単位で相互評価を行わせるようにした。（教授）
 - 講義課題をグループで取り組ませることにより、問題解決能力、コミュニケーション能力などの育成を図った。（教授）
 - TBL型講義を導入し、講義を反転授業にした。そのために、講義専用の e-Learning 用コンテンツを作成した。これにより、学生の自習時間が大幅に増えた。（教授）
 - 受講者に対して授業時間外の学習課題を合計3回課した。課題は講義HPから受け取ることとし、講義HPから採点結果をフィードバックした。（准教授）
 - 講義の最初に小テストを実施し、講義の最後に確認テストを実施した。これらの解答はWeb上で公開し、誤答例や注意なども示した。（教授）
 - 一方的に講義をするのではなく、15回の講義において、全履修者に最低1回は発表する機会を設け、講義課題の説明を行わせた。（教授）
 - ティーチング・ポートフォリオに基づいて自身の教育理念と方法を第1回目の講義で説明した。（教授）

【循環物質化学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- プレゼンテーションにアニメーションを加えて、わかりやすくした。（教授）
- 分子モデリングソフトを使って理解力の向上を図った。（教授）
- プレゼンテーションを多用して、わかりやすくした。（教授）
- PowerPointの内容を一部改訂した。（教授）
- 前年度の授業評価結果をふまえ、教育内容と方法を見直した結果、満足度が良好となった部分も少なくなかった。（准教授）
- 自宅学習時間が不足気味なので、小テストの回数を増やすことで理解度の向上が見られた（教授）
- 授業評価結果を基に次年度以降のシラバスを改定した。（教授）
- レポートを課し、理解力の向上を図った（教授）
- 所属学科では効果的なFDのためにJABEE認定を実現したが、本科目においてもこの基準を満たすように教育内容と方法を継続的に工夫しており、少なからず教育の向上及び改善に結びついていると考えられる。（准教授）

- 前年度の内容と方法の問題点等について見直しを図った上で、単にやるべきことを指示するのではなく、受講生が自発的に考え、取り組めるように誘導することを心掛けると共に、これを実践した。（教授）

【機械システム工学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 担当科目を JABEE の基準をベースとして授業をすすめ、その結果を FD レポートとしてまとめた。
- シラバスにより授業計画を公開し科目と学習教育目標との対応関係を示した。
- 学生に対し達成度評価をフィードバックすることで、学習意欲の向上に努めた。
- 昨年度の授業評価アンケート等で得られた改善内容を、本年度の講義にフィードバックするよう努めた。
- 学生による成果報告をサポートし、国際会議等での発表を指導した。
- オフィスアワーを設け、学生からの学習・進路等の相談に応じた。
- 卒業研究継続困難な学生の父兄と今後の指導の方法性について相談した。
- 博士後期課程の学生を受け入れ、博士学生定員を充足するように努力した。
- Web 上に講義ノート、演習課題の模範解答を公開し、予習復習ができるようにした。
- TA の活用により授業時間中に理解不足の学生に対する個別のフォローに努めている。
- 中間試験を実施し、自主学習を促進させている。
- 演習レポートにできるだけ詳細な添削を実施している。
- 演習レポートを毎回提出させることで、学習の習熟度を上げて行った。
- パワーポイントを効果的に使用するなど、学生の理解を深めるよう講義を工夫した
- 基礎的学問の内容が、社会（特に工学分野）で実際にどのように役立つかを意識づけるよう心掛けた。
- 配属学生を対象に勉強会を開いて専門教育の充実を図った。

【電気電子工学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 講義ノートの作成と Web 公開。（教授）
- 再試験，特別試験，特別再試験などの試験を追加した所，合格率が 10%-20% 向上した。（教授）
- 板書とプロジェクタを併用して講義を行うことで理解度の向上に努めた。また使用するスライドは毎回印刷し配布することで自主学習の促進を目指した。（准教授）
- 昨年度の試験問題を LiveCampus により配布し、学習を促した。再履修者、担当科目の成績不振者および中間試験の成績不振者を教室前方の席に着席させるよう座席指定を行った。これは TA 学生のアイデアである。（教授）
- 昨年度の試験問題を LiveCampus により開示し、学習を促した。（教授）
- 小物を用いて視覚的に理解できるよう努めた。（教授）

- 講義で使用するスライドを毎回印刷し配布することで、理解度の向上と自主学習の促進を目指した。（教授）
- 講義用スライドを事前に LiveCampus にアップロードし、予習を促した。（教授）
- 授業内容、演習解答などについて、プレゼンの機会を多く与えさせることにより予習を奨励すると共に授業中における積極的な質問を加点した。（教授）
- 指導している修士学生 5 名に、応用物理学会全国大会 2 件、応用物理学会九州支部大会 3 件、国際会議 3 件の発表をさせた。（准教授）
- 毎回、自習課題を課し、自習に提出させた。（准教授）
- TA を配置して演習をするだけにとどまらず、授業及び演習後毎回宿題を課すと共に解答例を開示した。（教授）

【都市工学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 受講生に対し講義ごとの質問票あるいはミニテストの実施とチェック（教授、准教授）
- 再試験の受験者には、事前の自習を要求している（教授、准教授）
- 大学院生には学外での研究発表を義務化、発表の事例（教授、准教授）
- 学生による授業評価を通じて得られた諸問題に対する教育法の改善（教授、准教授）
- 技術士 1 次試験の過去問を講義に活用し、技術士 1 次試験合格者を増やす努力を行っている。（教授、准教授）

【先端融合工学専攻】

教育改善に関する努力として、以下の事項が実践されていると記載がある。

- 講義に利用するパワーポイントファイルの内容を改良した。（准教授）
- 当日講義における板書を PDF 化し、ライブキャンパスシステムを通して配布した（教授）
- 補習的な内容で基礎学力が不足している学生に対して指導を行った。（教授）
- 配布プリントの改善を行った。（准教授）
- 授業内容を精選し、分かり易い授業とした。（教授）

3.1.3. 教育研修・FDに関する事項

教育研修・FD について、工学系研究科各専攻の教員は次の活動を行っている。

【数理科学専攻】

専攻内での FD 活動の他、

- 工学系研究科 FD 報告会（教授、准教授）
- 自学自習システムおよび出席管理システムの説明会（教授）
- ハラスメント講演会（教授）

への参加が報告されていた。

【物理科学専攻】

専攻内での FD 活動の他,

- ほぼ全員が (簡易版) ティーチングポートフォリオを作成した。
 - 学外の会議などに出席し, 他大学の教育に関する情報を交換している (教授)
 - 12 大学教養教育実施組織会議の当番校として会議を企画し運営した。 (教授)
- などが報告されていた。

授業改善や実質化の取り組みとしては,

- 授業評価で, 「内容が理解しにくい」という授業評価の結果が出たので, 学生の質問を取りまとめ, 回答をスライドショーにして授業開始前に上映し, また PDF ファイルを LiveCampus で提供して, 理解を深める努力を行った。 (教授)
- LMS において演習問題の出題だけでなく, 毎週の自主学習の指示や, 次回の予告などゴーイングシラバスの内容を記載した。 (教授)
- グループ演習の導入。 (教授)
- 自作のテキストを充実させることで, 学生に自己学習させて発表させ, 履修者間での質疑応答の機会を作るなど, 対話型の授業ができた。 (教授)
- シラバスに自習課題を記載している。さらに, 原則として毎回演習を行い, 答案を回収, 採点, 返却し, 解答例を配布している。 (准教授)

などが報告されていた。

以上のように, 各教員が, 授業科目の特性に合わせて, 教育方法や教材などを工夫していることがわかる。

【知能情報システム学専攻】

教育改善について, 講師以上の全教員が毎年 1 回以上の FD 報告を教室会議後の教育点検委員会において行っている。それ以外に以下のような事項が報告されている。

- 工学系研究科・理工学部 FD 講演会に参加した (教授, 准教授)。
- 次世代の社会基盤を支える ICT (情報通信技術) 最新動向セミナーに参加した (准教授)。
- 佐賀大学先進的 ICT 利活用教育シンポジウムに参加した (准教授)。
- 文献検索: 引用文献データベース Scopus の威力を実感しよう, に参加した (准教授)。
- 無料の文献管理ツール Mendeley の多彩な機能を使ってみよう, に参加した (准教授)。
- ティーチング・ポートフォリオ・作成ミニワークに参加し, 簡易版 TP を作成した (教授, 准教授)。
- インターナショナル・オープンデータ・デイ in 佐賀に参加した (准教授)。
- 第 27 回 佐賀大学 FD・SD フォーラム「大学における学術情報基盤と図書館の機能強化: 主体的な学習への転換と図書館のラーニングコモンズ」に参加した (教授, 准教授)。
- 教育デジタルアーカイブ自学自習支援システム利用者説明会に参加した (准教授)。

- ・ ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップでメンターやスーパーバイザーを務めた（教授）。
- ・ 大学コンソーシアム佐賀 SD 事後研修会「スタッフ・ポートフォリオ報告会」に参加し、講演も行った（教授）。
- ・ 大学 e ラーニング協議会と 8 大学連携共同教育推進事業の合同フォーラムにて、「大学数学科目における反転授業と TBL の試み」と題した講演を行った（教授）。

【循環物質化学専攻】

専攻内での教育プログラム委員会及び教育FD委員会による、授業改善について議論や、教員個人のFD活動の他、

- ・ 工学系研究科 FD 報告会（教授，准教授）
 - ・ 佐賀大学教養教育運営機構 FD 講演会（教授）
 - ・ 佐賀大学全学教育機構 FD 講演会（教授）
 - ・ 佐賀大学第 27 回 FSDS フォーラム（教授）
 - ・ 理工学部・工学系研究科 FD 講演会（教授，准教授，助教）
 - ・ ティーチング・ポートフォリオミニワークショップ(准教授)
 - ・ 佐賀大学スキルアップセミナー（教授）
 - ・ 佐賀県教員による高大接続に関する研修会（教授）
 - ・ 高知県立大学 FD 講演会（教授）
 - ・ 異分野融合デザイン産学連携広域ネットワーク会議（教授）
 - ・ ハラスメント講演会（教授，准教授）
- への参加が報告されていた。

【機械システム工学専攻】

専攻・学科内での FD 活動の他、

- ・ 専攻・学科内に設置した教務・JABEE グループによる JABEE 基準適合対応，学部および大学院の教務関連事項の検討
 - ・ 学部 FD 講演会への参加
- などが報告されていた。

【電気電子工学専攻】

専攻内での FD 活動の他に、

- ・ 工学系研究科 FD 報告会（教授，准教授，講師）
 - ・ ハラスメント防止講演会（教授，准教授，講師）
 - ・ 佐賀大学本庄地区ティーチング・ポートフォリオ・ミニワークショップ（教授，講師）
 - ・ 大学 e ラーニング協議会と 8 大学間連携共同教育推進事業の合同フォーラム（准教授）
 - ・ EA21 への取り組みに関する 研修会（教授，准教授，講師）
- への参加が報告されていた。

【都市工学専攻】

専攻内での FD 活動の他,

- 工学系研究科 FD 報告会 (教授, 准教授) ・ 情報処理教育の現状 (教授)
 - 佐賀大学スキルアップセミナー (准教授)
- への参加が報告されていた。

【先端融合工学専攻】

学科・専攻内での FD 活動の他,

- 工学系研究科 FD 講演会 (教授, 准教授)
 - 学部ティーチング・ポートフォリオ・ワークショップ (教授, 准教授)
 - ハラスメント防止講演会 (教授, 助教)
 - 佐賀大学 FD・SD フォーラム (助教)
- への参加が報告されていた。

3.1.4. オフィスアワーの設置と学生相談に関する事項

オフィスアワーの設置と学生の訪問については、工学系研究科内の全ての教員が行っている。専攻ごとの相談内容については、以下のとおりである。

【数理学専攻】

- 相談内容は学習方法や将来の進路に関するものが多い。(教授, 准教授)

【物理科学専攻】

- 悩みを抱える学生の情報を教員間で共有し、できるだけ学生と面接するなど、留年率を下げるための努力を学科全体で取り組んでいる。
- 就職関係で不明者が出ないように努力した。

【知能情報システム学専攻】

- 相談内容は学修相談が 74%、生活相談が 11%、進路相談が 14%であり、学習相談が相談の多くを占める。修学状況の悪い学生や教員免許希望者への対応には教務委員・副教務委員などによる細やかな履修相談も行っている。(教授, 准教授)
- 電子メールでの相談が 37%、オフィスアワー以外の面接が 51%、オフィスアワーにおける面接が 12%である。電子メールで解決問題については、直接会って面談を行っている。そのため、オフィスアワー以外の面接が多い。
- 進路に関する相談は、就職担当教員(教授)が一括して担当しているが、卒業研究教員やチューターとの相談も貴重なアドバイスになっている(全教員)。
- 学生からの要望については、学科掲示板やメーリングリストで情報を共有し、可能な限り要望に応えるようにしている。

【循環物質化学専攻】

- オフィスアワーの設置と学生の訪問については、全教員が行っている。
- オフィスアワーは全教員が設定しており、学生の訪問に対応している。

- ・ オフィスアワー以外の時間においても、教員は学生の訪問・相談に適宜対応している。
- ・ 学生からのメールによる相談についても対応している。
- ・ 毎学期毎に全学生に対し、チューター面談を実施している。
- ・ 1年生および2年生については、ラーニング・ポートフォリオを活用したチューター指導を実施している。
- ・ 学生の訪問・相談は、専攻主任や教務委員、教育プログラム委員長、就職担当教員などに対するものが多い。
- ・ 相談内容は、授業に関する質問が最も多く、その他履修上の相談や就職に関する相談・報告、進路等の相談など多岐にわたる。

【機械システム工学専攻】

- ・ 相談内容は学修相談と就職・進路相談が各々全体の半数ずつで、それ以外には生活相談を実施している。

【電気電子工学専攻】

- ・ 相談内容は学習や進路相談に関するものが多い。（教授、准教授）
- ・ チューター面談に関する回数報告が全体の8/17と専攻内で約半数である。

【都市工学専攻】

- ・ 相談内容は学修、生活、就職に関するものが多い。（教授、准教授）

【先端融合工学専攻】

- ・ オフィスアワー時間以外の面談が多いが、電子メールでの対応も行っている。内容は教務事項及び就職相談が多い。

3.1.5. 学生の受賞等

【知能情報システム学専攻】

- ・ 人工知能学会 2013 年度(第 1 回)学生奨励賞（指導教員：准教授）
- ・ 10th International Conference on Information Technology: New Generations (ITNG2013) Best Student Paper（指導教員：教授）

【循環物質化学専攻】

- ・ 有機エレクトロニクス研究討論会 優秀研究発表賞（指導教員：准教授、助教）
- ・ 高分子化学 若手奨励賞（指導教員：准教授、助教）
- ・ ICMR 2013(7th International Conference on Materials Engineering for Resources)での招待講演（指導教員：教授）

【機械システム工学専攻】

- ・ 日本機械学会 畠山賞
- ・ 日本機械学会 三浦賞
- ・ 日本設計工学会 武藤栄次賞

【電気電子工学専攻】

- ローデスワルツオシロスコープコンテスト入賞（指導教員：教授）
- 電子情報通信学会九州支部長表彰「学生会講演奨励賞」（指導教員：教授，准教授）
- 産業応用工学会全国大会 2013 学生賞（指導教員：准教授）
- 日本知能情報ファジィ学会ソフトサイエンス研究部会ベストプレゼンテーション賞（指導教員：准教授）

【都市工学専攻】

- 平成 25 年度土木学会西部支部研究発表会優秀講演賞 学部生 1 名，院生 1 名
- 平成 25 年度日本コンクリート工学会九州支部長賞 学部生 1 名，院生 1 名
- 平成 25 年度都市住宅学会九州支部優秀学生賞 学部生 1 名
- 平成 25 年度空気調和・衛生工学会九州支部長賞 院生 1 名
- 空気調和・衛生工学会第 28 回振興賞学生賞 学部生 1 名
- 平成 25 年度日本都市計画学会九州支部長賞 学部生 1 名
- 平成 25 年度日本建築学会九州支部長賞 学部生 1 名
- 平成 25 年度地盤工学会九州支部優良学生賞 院生 2 名
- 平成 25 年度修士論文審査会優秀発表賞 院生 5 名
- 平成 25 年度卒業論文審査会優秀発表賞 学部生 12 名
- 平成 25 年度卒業制作丹羽賞 学部生 1 名

【先端融合工学専攻】

- IEEE IM Japan Chapter Student Award（指導教員：教授）
- 計測自動制御学会九州支部・第 32 回学術講演会学生発表交流会優秀発表賞（指導教員：教授）

3.2. 研究の領域

3.2.1. 著書，論文等の発表実績

過去5年間（H20.4.1～H25.3.31）の発著書，論文等の発表実績を表 3.2 に示す。

表 3.2 過去5年間（H20.4.1～H25.3.31）の発著書，論文等の発表実績の平均値

専攻	職種	著書	論文総数		和文原著		英文原著	
				査読付		査読付		査読付
数理学専攻	教授	0.3	7.9	6.9	1.1	0.1	6.7	6.7
	准教授 (含講師)	0.0	3.3	3.3	0.0	0.0	3.3	3.3
物理学専攻	教授	0.2	9.8	7.8	1.5	0	8.3	7.8
	准教授	0	12.0	11.9	0	0	11.3	11.1
知能情報 システム学専攻	教授	1.4	43.0	42.0	6.0	5.4	37.0	36.6
	准教授 (含講師)	0.4	33.2	13.0	14.4	2.6	11.8	10.4
	助教	0.0	2.7	2.7	1.0	1.0	1.7	1.7
循環物質化学 専攻	教授	1.00	13.2	11.9	0.8	0.3	11.1	11.1
	准教授	0.29	13.6	11.4	1.6	0.3	12.0	11.1
	助教	1.0	10.3	8.8	1.8	0.3	8.5	8.5
機械システム 工学専攻	教授	0.7	18.9	18.0	3.1	2.7	15.7	15.4
	准教授 (含講師)	0.5	16.0	13.8	8.9	8.6	7.0	5.1
	助教	0	26.0	6.5	17.0	3.5	9.0	3.0
電気電子工学 専攻	教授	1.8	25.0	21.8	16.2	9.4	8.8	12.4
	准教授 (含講師)	0.9	21.4	14.1	9.8	2.4	11.7	11.7
	助教	0.0	7.0	7.0	0.3	0.3	6.7	6.7
都市工学専攻	教授	1.0	27.8	19.4	11.6	4.9	16.2	14.5
	准教授 (含講師)	0.3	22.1	6.3	16.1	2.0	6.1	4.4
	助教	0	13.5	6.0	10.5	2.5	3.5	3.5
先端融合工学 専攻	教授	2	30.6	26.6	5.5	1.7	25.1	24.9
	准教授	1.1	21.6	21.4	1.9	1.7	22	22
	助教	0	6.3	6.3	4	4	2.3	2.3

【数理学専攻】本表より，全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は，かなり良好である。
- 准教授の研究活動は，概ね良好である。

【物理科学専攻】本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は概ね高い水準にある。
- 准教授の研究活動は特に高いアクティビティを示している。

【知能情報システム学専攻】本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授、准教授の研究活動は順調であり、成果を上げている。
- 教授、准教授の過去 5 年の業績数は、昨年度までの過去 5 年間に比べてやや落ちているものの、査読付き論文の総数で見れば、教授は増えており、准教授もほとんど変わっていない。
- 助教の研究活動は昨年度までの過去 5 年間よりも、本年度までの過去 5 年間の方が多し。しかしながら、助教の研究活動は停滞していると言わざるをえない。助教の研究活動を活性化するための取り組みが必要である。

【循環物質化学専攻】本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は非常に良好であり、5 年間に一人平均 11.90 編の査読付き論文を報告している。
- 准教授の研究活動は非常に良好であり、5 年間に一人平均 11.43 編の査読付き論文を報告している。
- 助教の研究活動は良好であり、5 年間に一人平均 8.75 編の査読付き論文を報告している。

いずれの教員とも、主として査読付き英文論文を報告しており、国際的水準にある研究活動を行っていると思われる。ただし、昨年度に比べおよそ 1 編弱程度発表実績が低下しており、学士課程教育 2 コースの実施や大学および当該研究科の組織運営への多大な寄与が研究活動に影響を与えていると思われる。

【機械システム工学専攻】本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授、准教授・講師、助教ともに概ね良好な研究活動が行われていると評価できる。

【電気電子工学専攻】本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は・・・博士後期課程学生の博士号認定資格を維持している。
- 准教授の研究活動は・・・博士前期課程学生の修士号認定資格を維持している。
- 助教の研究活動は・・・博士前期課程学生の指導資格を概ね維持している。

【都市工学専攻】本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授の研究活動は、昨年度と同様に、著書や査読付き論文で大きな成果を挙げている。ただし、論文数では個人差が大きく、指導する博士後期課程学生数が多い教員に査読付き論文数が集中している。
- 准教授の研究活動は、和文の論文数で教授を上回っている。ただし、論文数では個人差が大きい。
- 助教の研究活動は、論文総数は教授・准教授に比べ少ないが、査読付き論文は准教授・講師と同じ程度である。

【先端融合工学専攻】本表より、全体的に以下の点が窺い知れる。

- 教授は5年間で平均26.6件の査読付き論文を発表している。
- 准教授は5年間で平均21.4件の査読付き論文を発表している。
- 助教は5年間で平均6.3件の査読付き論文を発表している。

3.2.2. 共同研究などに関する活動実績

【数理学専攻】

- 中期計画推進経費（教授，准教授）
- 他大学の研究者との共同研究（教授，准教授）

【物理学専攻】

- 他学科との共同研究を行っている（准教授）

【知能情報システム学専攻】

- 佐賀大学医学部との共同研究（教授）
- 東京大学との共同研究（教授）
- 民間企業との共同研究（准教授）
- 熊本高専との共同研究（准教授，講師）
- 大阪大学，東京大学，名古屋大学，高エネルギー加速器研究機構，名城大学との共同研究（教授）
- 東京工業大学大学院総合理工学研究科，広島大学大学院教育学研究科との共同研究（准教授）
- 佐賀大学文化教育学部との共同研究（准教授）
- 九州航空宇宙開発推進協議会による宇宙利用プロジェクト（准教授）
- 日立製作所との共同研究（教授）
- 国立環境研究所との共同研究（教授）
- JAXA との共同研究（教授）
- 産業技術総合研究所からの受託研究（教授）
- 佐賀県農業試験研究センターとの共同研究（教授）
- 学内 COE:身体装着型位置・姿勢・健康状態モニタシステムに関する研究（教授）
- 三重大学工学部との共同研究（准教授）
- 千葉労災病院，袖ヶ浦さつき台病院との共同研究（准教授）

【循環物質化学専攻】

- 科学研究費補助金に新規・継続合わせて11件が採択された（教授，准教授，助教）
- 市・県，財団法人，民間企業，大学との共同研究を13件受け入れた（教授，准教授）
- 市・県，財団法人，民間企業からの受託研究を8件受け入れた（教授，准教授，助教）
- 環境省の外部資金を獲得（教授）

- 平成25年度学長経費「研究プロジェクト」に専攻より1件継続採択された(教授)
- 平成25年度工学系研究科長経費研究活性化事業「若手研究者支援経費」に専攻より3件継続採択された(准教授, 助教)
- 東京理科大学薬学部, 香川大学医学部との共同研究(教授)
- 東京理科大学薬学部, 筑波大学人間科学研究科(教授)
- 九州大学大学院理学研究府との共同研究(教授)
- 九州大学, 鈴鹿高専との共同研究(教授)
- 千葉大学大学院融合科学研究科との共同研究(教授)
- 琉球大学理学部との共同研究(教授)
- 島根大学教育学部, 総合理工学部との共同研究(教授)
- 兵庫県立大学との共同研究(教授)
- 関西学院大学との共同研究(教授)
- 久留米大医学部との共同研究(准教授)
- 立命館大学理工学部との共同研究(教授)
- 北海道大学, 豊橋技術科学大学, 名古屋工業大学, 松山大学との共同研究(准教授)
- 韓国・高神大学教員との共同研究(教授)
- カナダ・Wilfrid Laurier University との共同研究(教授)
- インドネシア・ガジャマダ大学教員との共同研究(教授)
- イギリス Glyndwr 大学との共同研究(准教授)
- ポーランド Jagiellonian University との共同研究(准教授)
- 米国 Oklahoma State University との共同研究(准教授)
- 米国ペンシルベニア州立大学との共同研究(准教授)
- 独立行政法人産業技術総合研究所との共同研究(教授, 准教授, 助教)
- 原子力研究開発機構との共同研究
- 物質材料研究機構との共同研究
- その他営利・非営利団体との多数の共同研究(教授, 准教授, 助教)
- 電力中央研究所 海洋エネルギー研究センター(准教授)

【機械システム工学専攻】

- 乱れ促進体を用いたプレート式熱交換器の相変化を伴う伝熱促進と圧力損失低減
- 極少量の水を含むアンモニアの気液平衡特性と溝付管内蒸発熱伝達の実験
- 海洋深層水吐出口流の海洋表層への影響に関する基礎研究
- 増圧操作とくぼみ付き流路幾何パラメータの関係についての研究
- 螺旋板型アンモニア蒸発器に関する研究
- 多結晶マグネシウム合金の疲労破面とき裂進展経路
- 集合組織を有する多結晶マグネシウム合金の疲労き裂進展挙動の解明
- 特有な集合組織の多結晶マグネシウム合金のき裂先端特異応力場での破壊機構の解

明

- 水素吸蔵合金容器における伝熱および水素吸蔵特性の解析
- 高効率ノンフロン型空調機器技術の開発
- 高剛性油の高圧物性測定評価研究
- 潤滑油の高圧物性に関する研究
- 液体の高圧物性に関する研究
- ボトリオコックス抽出オイルの潤滑油性能に関する研究 など

【電気電子工学専攻】

- NEDO 戦略的創造研究推進事業（准教授）
- NEDO 研究開発費補助金（ベンチャー企業への実用化助成事業）（教授）

【都市工学専攻】

- 「地（知）の拠点整備事業」の分担（教授）
- 歴史的町並みにおける道路閉塞を考慮した二方向避難確保に関する研究（教授）
- 化学的地盤改良を施した沖積粘土地盤の酸性化に伴う強度低下に関する研究（助教）
- 科研基盤研究 B（代表）（教授）

【先端融合工学専攻】

- 企業との共同研究（教授，准教授）
- 国立大学法人との共同研究（教授）
- 独立行政法人との共同研究（教授，准教授）
- 企業からの受託研究（教授）
- 工学系研究科長経費・研究活性化事業「中期計画推進経費」（教授，准教授）

3.2.3. 受賞等の実績

【知能情報システム学専攻】

- 情報処理学会 JIP 特選論文（准教授）
- New Journal of Physics, Hightlists of 2013（教授）
- Best Paper Award for ICACISIS 2013（教授）

【機械システム工学専攻】

- 日本マグネシウム協会奨励賞（准教授）

【都市工学専攻】

- Elsevier より Outstanding Reviewer in 2013, Computers and Geotechnics（教授）

【先端融合工学専攻】

- 計測自動制御学会より計測自動制御学会著述賞（教授）
- 国立大学法人佐賀大学教育功績者（教授）

3.3. 国際・社会貢献の領域

3.3.1. 国際交流実績

【数理学専攻】

- 国際研究集会での講演（教授，准教授）
- 国外の研究者との共同研究（教授）

【物理学専攻】

- ホームページ（英文）による研究紹介（教授）

【知能情報システム学専攻】

- 英語によるホームページを開設（教授，准教授，助教）
- 国際会議査読委員（教授，准教授）
- 国際会議 Track Chair（教授）
- 国際学術論文誌の査読（教授）

【循環物質化学専攻】

- 中国遼寧大学との国際パートナーシッププログラムの主催および講師（教授，准教授）
- 大邱大学とのジョイントセミナー講師（准教授）
- European Molecular Liquids Group and Japanese Molecular Liquids Group, Secretary（教授）
- European Molecular Liquids Group and Japanese Molecular Liquids Group Annual Meeting 2013 in Lille, France, Scientific Advisory Committee（教授）
- ICMM2016 : The 15th International Conference on Molecule-Based Magnets, Organizing Committee（教授）
- 国際刺激応答性材料会議（米国）Advisory Board Member（教授）
- 九州・西部-釜山・慶南高分子(第16回)繊維(第14回)合同シンポジウム 日韓合同シンポジウム（高分子学会）実行委員（准教授）
- University of Lille 1 (France)を訪問（教授）
- ペンシルベニア州立大学を訪問（准教授）
- Wilfrid Laurier 大学（カナダ）コンタクトパーソンとして，佐賀大学との「学生交流協定」締結（平成25年9月6日）（教授）
- Wilfrid Laurier 大学（カナダ）訪問（准教授）
- 佐賀大学在籍のアジア人留学生を対象とした自主講座を開催（教授）
- The University of Manchester の教員招聘，講演会の開催（准教授）
- 2013 Kyushu-Seibu/Pusan-Kyeongnam Joint Symposium on High Polymers (16th) and Fibers (14th)の開催（教授，准教授，助教）
- 2nd international symposium on host compounds for separation and functionality in Saga の開催（教授）

- その他国際学会での招待講演や発表（教授，准教授）

【機械システム工学専攻】

- 国際パートナーシップ講師
- 国際学会の Committee
- 国際会議開会の運営委員，実行委員など
- 海外からの研究者の受け入れ
- 留学生の受け入れ
- 国際会議における発表等
- 外国語によるHPの開設

【電気電子工学専攻】

- パリ大学，Jocelyn Achard 教授と「シンクロトロン X 線トポグラフィーによるパワー半導体ダイヤモンド薄膜結晶の結晶欠陥」に関する共同研究
- 「ダイヤモンド等の新規半導体によるグリーンエレクトロニクス of 構築」研究プロジェクトの特別研究員として Dr. Rajanish N. Tiwari を採用（H26 年 2 月 1 日から）
- 平成 25 年 7 月 30 日～8 月 13 日：バングラデシュ Chittagong University of Engineering and Technology (CUET) より Dr. Md. Azad Hossain を招聘し，「高機能平面アンテナ」に関する共同研究
- 国際共同研究の一環として，米国ローレンスバークレー国立研究所より Dr. Kin Man Yu が平成 25 年 9 月に訪問し，共同研究の議論を行うと共に，講演会を実施
- 米国ローレンスバークレー国立研究所および台湾の国立交通大学と太陽電池材料に関する共同研究
- 日本学術振興会二国間交流事業（共同研究）の下で，中国科学院蘭州化学物理研究所から Prof. Xiuxun Han 他 1 名を平成 25 年 7 月 27 日～8 月 3 日の間受け入れ，共同研究の議論を行うと共に講演会を開催。また，平成 25 年 9 月 24～27 日の間，同研究所を訪問し，共同研究の議論と講演，その後，共同研究成果は共著論文として発表
- 学科，研究室の英語のホームページによる情報発信（教授，准教授，講師，助教）

【都市工学専攻】

- 工学系研究科国際パートナーシップ講師（教授，准教授）
- 外国語ホームページの開設（教授）

【先端融合工学専攻】

- 工学系研究科国際パートナーシップ講師（教授，准教授）
- 英語によるホームページ開設（教授，准教授）

3.3.2. 社会貢献実績

【数理学専攻】

- 学会論文査読委員（教授，准教授）

- 学会論文誌編集委員（教授，准教授）
- 日本数学会での座長（教授）
- 高等学校数学教諭との交流会（教授）
- ジョイントセミナー（教授）
- 致遠館高校 SSH 事業理系ガイダンス講座（准教授）

【物理科学専攻】

- 学会論文査読委員（教授，准教授）
- 学会論文誌編集委員（准教授）
- 佐賀県 SSH 運営指導委員，JST の SSH 全国大会審査員（教授）
- ジョイントセミナー（教授，准教授）
- 公開講座「ヒッグス粒子が見つかった！」の企画や講師（教授，准教授）

【知能情報システム学専攻】

- ジョイントセミナーやスーパーサイエンス高校の講師（教授，准教授）
- 学会論文等査読委員（教授，准教授）
- 公開講座「佐賀大学先進的 ICT 利活用教育シンポジウム」講師担当（准教授）
- 佐賀県主催の協議会等の幹事，運営委員など（教授）
- 大学コンソーシアム佐賀 SD 研修講師（教授）
- 他大学のティーチング・ポートフォリオ研修などの講師・メンター（教授）

【循環物質化学専攻】

- 学会論文査読委員（教授，准教授，助教）
- 学会論文誌編集委員（教授）
- 学会支部幹事（教授，准教授）
- 学会代議員（教授）
- 学会分科会代表（教授）
- 学振 155 委員会委員（教授）
- 国際学会運営委員（教授）
- 国内学会開催の実行委員，運営委員など（教授，准教授，助教）
- 佐賀県，佐賀市，小城市，鹿島市，鳥栖市の環境審議会委員および委員長（教授）
- 佐賀県理科・化学教育研究発表会実行委員・講師（教授，准教授）
- 高校化学グランプリ佐賀地区予選実行責任者（教授）
- 夢化学 21「化学への招待」代表・実行委員（教授，准教授，助教）
- SAGA わくわく祭（さい）エンス 2013 ブース担当（教授，准教授，助教）
- 第 3 回みんなの科学広場 in 唐津（助教）
- 高大連携活動の新しい展開—学生が企画する大学生と高校生の交流企画（ワールドカフェ）—指導者（教授）
- JABEE 外部評価委員（教授）

- 佐賀県高等学校教育研究会理科部会大会講師（教授）
- 高等学校進路説明会講師（教授）
- ジョイントセミナー講師（教授，准教授，助教）
- SSH 高大接続交流会講師（准教授）
- 産学官連絡会議委員（教授）
- 佐賀科学少年団役員（准教授）

【機械システム工学専攻】

- 学会理事
- 学会常務理事
- 学会評議員
- 学会校閲委員，編集委員，運営委員
- 学会九州支部理事，評議員，商議員，常議員など
- 研究会会長，幹事など
- 学会開催の実行委員，運営委員など
- ジョイントセミナー
- スーパーサイエンスハイスクールの講師
- 佐賀大学ものづくり技術者講座育成講座
- オープンラボ

【電気電子工学専攻】

- 学会論文査読委員（教授，准教授，講師）
- 電子情報通信学会九州支部学生会顧問（教授）
- 映像情報メディア学会・放送技術研究会専門委員（講師）
- ジョイントセミナー（教授，准教授，講師）
- 電子情報通信学会・マイクロ波研究会専門委員（講師）
- エレクトロニクス実装学会 回路・実装設計技術委員会委員（准教授）
- 国際学会 MWE2014 実行委員会・財務副委員長（教授）
- 2014 年環境電磁工学国際シンポジウム組織委員会（准教授）
- 電子情報通信学会電磁環境工学研究専門委員会委員（准教授）
- エレクトロニクス実装学会 回路・実装設計技術委員会委員（准教授）

【都市工学専攻】

- 学会論文査読委員（教授，准教授，講師）
- 学会論文誌編集委員（教授）
- 学会研究会幹事（教授，准教授）
- 佐賀県主催の協議会等の幹事，運営委員など（教授，准教授）
- ジョイントセミナー（教授，准教授）
- 学会開催の実行委員，運営委員など（教授，准教授）

- 科目等履修生の受入（教授）
- 公開講座（佐賀学のススメ）（教授）
- 受託研究（教授）
- 研究・技術指導（教授）

【先端融合工学専攻】

- 学会の役員，運営委員，幹事，委員など（教授，准教授）
- 学会論文査読委員（教授）
- ものづくり講座講師（教授，准教授）
- 国際学会座長（准教授）
- 佐賀県高等学校教育研究会講師（教授）
- ジョイントセミナー講師（准教授）
- スーパーサイエンスハイスクール事業講師（教授，准教授）
- 佐賀県の審議会の審議員（教授，准教授）
- 佐賀県主催の協議会等の幹事，運営委員など（教授）
- 共同研究・受託研究（教授，講師）
- 工業教育活性化セミナー（教授）
- 教員免許状講習会（准教授）
- 科目等履修生への講義（准教授）

3.4. 組織運営の領域

【数理学専攻】

- 工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（准教授，助教）
- ハラスメント・人権問題委員会委員（教授）
- 電子ジャーナル委員（教授）

【物理学専攻】

- 研究科長補佐や工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 部局長，評議員，教育室員（教授）
など，学内及び研究科等の運営において重要な役割を果たしている。

【知能情報システム学専攻】

- 工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 全学各種委員会委員の担当（教授）
- 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（准教授，助教）
- 全学教育機構併任（教授）
- I R室併任（教授）

【循環物質化学専攻】

- 全学及び工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- アドミッションセンター長（教授）
- 教養教育運営機構副機構長（教授）
- 全学教育機構副機構長・高等教育開発室長（教授）
- 大学教育委員会副委員長（教授）
- 大学教育委員会企画・評価専門委員会委員長（教授）
- 知財戦略・技術移転部門長（教授）
- 工学系研究科副研究科長（教授）
- 工学系研究科評議委員（教授）
- 工学系研究科研究科長補佐（教授）
- 工学系研究科教務委員会委員長（教授）
- 工学系研究科連携大学院運営委員会委員長（教授）
- 工学系研究科安全委員会委員長（教授）
- 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（教授，准教授，助教）
など，全学センター長，各種全学委員会委員長や工学系研究科委員会委員長として，組織運営に大きく貢献している。

【機械システム工学専攻】

- 工学系研究科・理工学部各種委員の担当（全教員）

- 各種全学委員会委員
- 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（全教員）
- 後援会協賛のOB懇談会開催

【電気電子工学専攻】

- 工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（全教員）
- 各種全学委員の担当（教授，准教授）
- キャリアセンター長（教授）

【都市工学専攻】

- 工学系研究科各種委員の担当（全教員）
- 省エネ，省資源などの活動に積極的に参加（准教授，助教）

【先端融合工学専攻】

- 全学・工学系研究科などの各種委員の担当（全教員）

4. 教員の総合的活動状況評価の集計・分析と自己点検評価

4.1. 各領域における自己点検評価点ならびに達成度

教員の総合的活動状況として、教員個人から自己点検された評価の各領域における評価点ならびに達成度の最小値と最大値をそれぞれの専攻の教授、准教授、講師、助教について整理したものが下記の表 4.1 である。

表 4.1 教員自身による自己点検評価（評価点ならびに達成率）

専攻	職種	教育の領域		研究の領域		国際貢献・社会貢献の領域		組織運営の領域		総合評価
		評価点	達成率	評価点	達成率	評価点	達成率	評価点	達成率	
数理学専攻	教授	3-4	70-80	3-5	70-90	3-4	60-80	3-5	70-95	3-4
	准教授 (含講師)	3-5	80-90	2-5	30-100	1-4	0-80	3-5	70-100	2-5
物理学専攻	教授	3-5	70-90	3-5	70-100	3-5	60-90	3-4	70-90	3-5
	准教授	1-4	50-90	2-4	15-90	1-4	0-80	1-3	0-90	1-4
知能情報 システム学専攻	教授	4-5	80-100	4-5	70-100	3-5	60-100	4-5	95-100	4-5
	准教授 (含講師)	4-5	80-100	4-5	80-100	3-5	80-100	3-5	60-100	4-5
	助教	3-4	80-90	3-5	50-100	3-4	10-80	3-5	80-100	3-4
循環物質化学 専攻	教授	3-5	50-100	2-5	50-100	3-5	60-100	3-5	60-100	2-5
	准教授	4-5	80-95	3-5	60-100	3-5	80-95	3-5	50-100	3-4
	助教	2-5	40-100	2-5	40-100	2-5	40-90	2-5	40-90	2-5
機械システム 工学専攻	教授	3-5	70-100	4-5	80-100	3-5	70-100	3-5	75-95	3-5
	准教授 (含講師)	3-5	70-100	3-5	60-95	3-5	60-100	3-5	70-100	3-4
	助教	3-4	70-100	3-4	70-70	3-4	70-80	3-4	70-100	3-4
電気電子工学 専攻	教授	3-5	75-100	4-5	80-100	4-5	85-100	4-5	80-100	4-5
	准教授 (含講師)	3-5	60-100	2-5	40-100	3-5	50-100	3-5	60-100	3-4
	助教	4-4	70-80	4-5	80-100	4-4	80-80	3-3	50-75	4-4
都市工学専攻	教授	2-5	30-95	3-5	60-100	3-5	70-95	3-5	70-90	3-5
	准教授 (含講師)	3-5	70-100	2-5	70-100	3-5	40-90	3-5	50-90	3-5
	助教	3-4	70-70	4-4	75-85	3-3	70-70	3-3	60-80	3-3
先端融合工学 専攻	教授	4-5	80-100	3-5	40-100	3-5	50-100	4-5	80-100	3-5
	准教授	4-5	80-95	3-5	75-90	4-5	85-95	4-5	80-100	3-4
	助教	4-5	80-100	3-5	60-80	3-4	20-70	4-5	70-100	3-4

表中、例えば、(3-4)は評価点、達成率の（最小数3-最大数4）を表す。

一部の専攻において助教の人数が少ないため、助教のデータは割愛した。

【数理科学専攻】

この表から、各教員は公正な自己評価を行っていると思われる。

【物理科学専攻】

この表から、各教員は概ね適切な自己評価を行っていると思われる。

【知能情報システム学専攻】

この表から、各教員は概ね適正な自己評価を行っていると思われる。

【循環物質化学専攻】

この表から、達成率は適切に実績を反映していると思われ、各教員は高いレベルでほぼ目標を達成していると分析される。しかしながら評価点の方は、目標設定の統一基準がないため実際の業績に見合わない控えめな自己評価が多く、評価点から有意義な結論を導くのは困難である。

【機械システム工学専攻】

この表から、ほとんどの教員においてはそれぞれの職分を考慮した適格な自己評価を行っていると思われるが、一部の教員については本学および本学部の目標達成に向けた活動という観点から判断して自己総合評価が若干低いように思われる。

【電気電子工学専攻】

この表から、各教員は概ね良好な自己評価を行っていると思われるが、頑張っている人の自己評価が低いのが気になる。さらに、目標設定が達成可能なものに限定しており、自己評価がかなり甘い教員もいる。

【都市工学専攻】

この表から、各教員は厳格な自己評価を行っていると思われる。

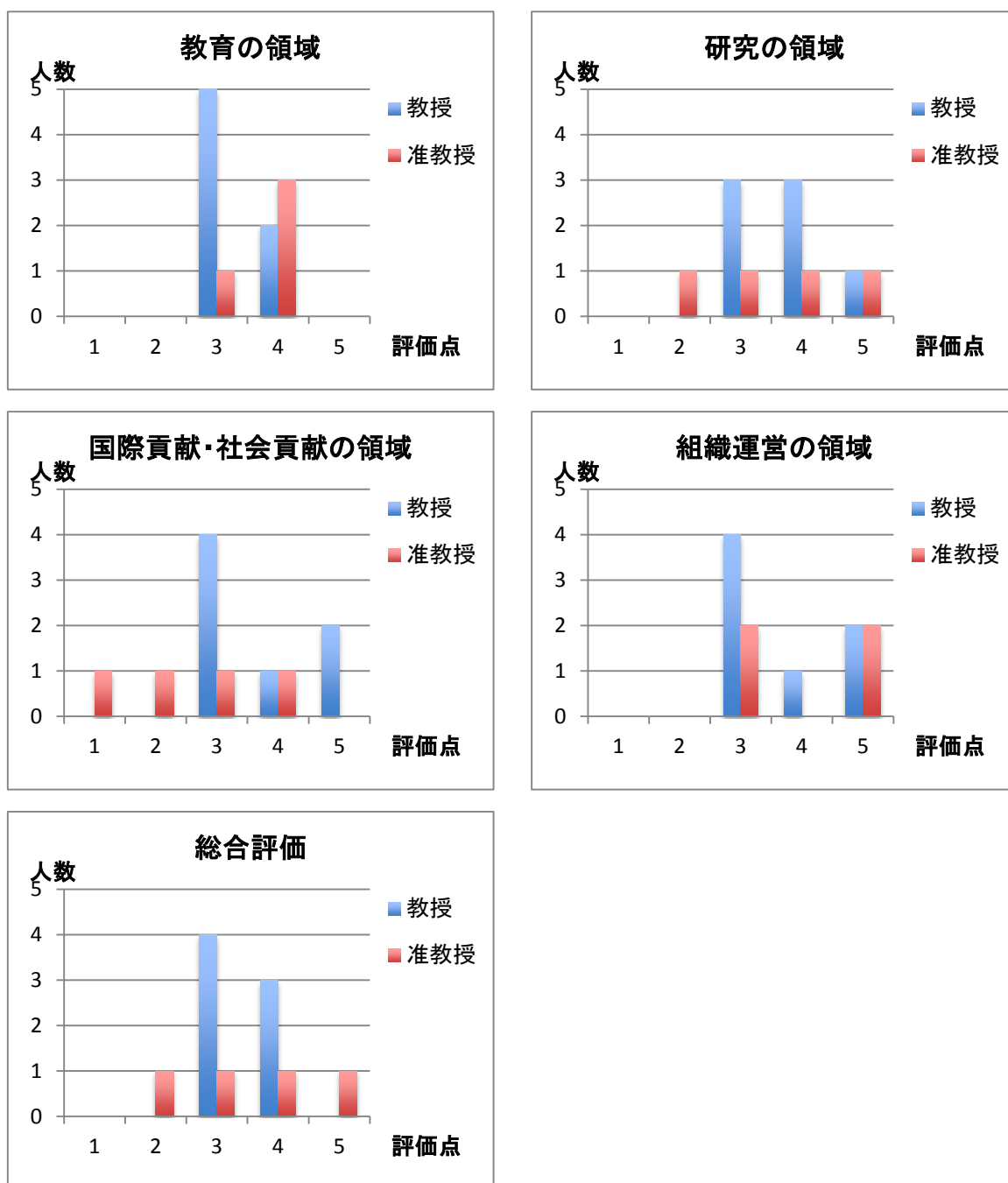
【先端融合工学専攻】

評点は2・5の範囲に渡り、この表から、各教員は概ね適切な自己評価を行っていると思われる。

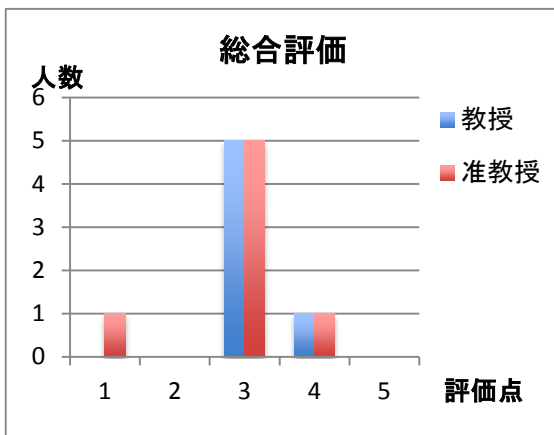
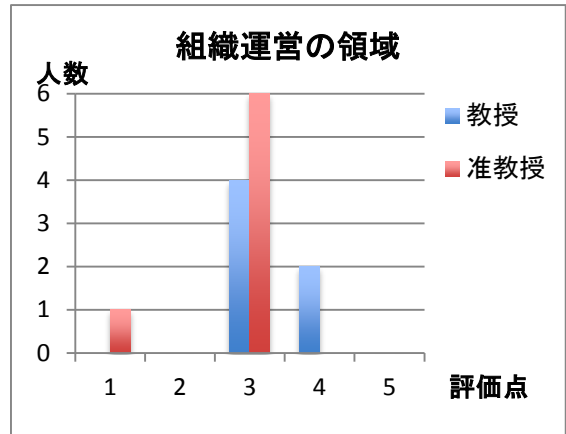
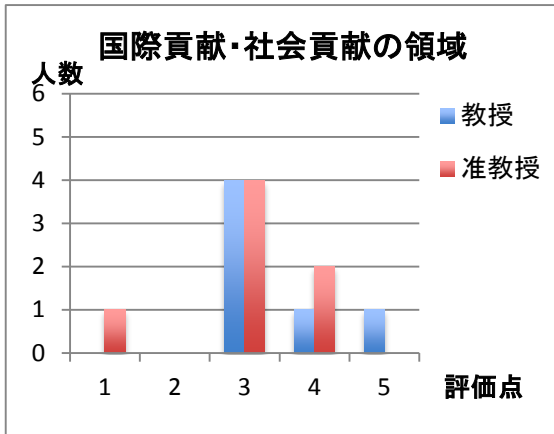
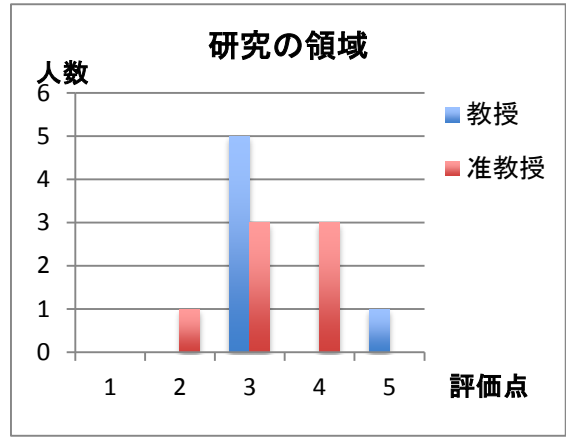
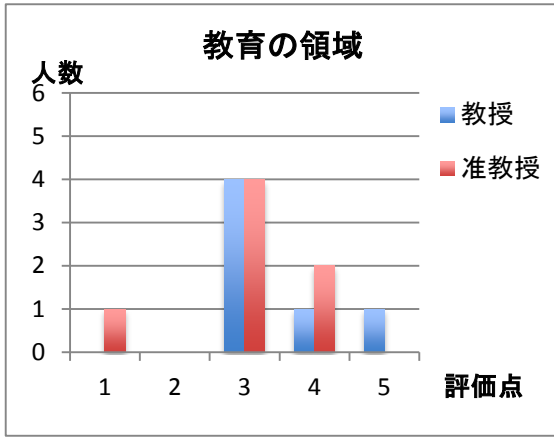
4.2. 評価領域に関する自己点検評価点のヒストグラム

以下のとおり専攻毎に各教員が自己点検した評価領域に関する評価点のヒストグラムを示す。「准教授」は准教授と講師の合計を表す。

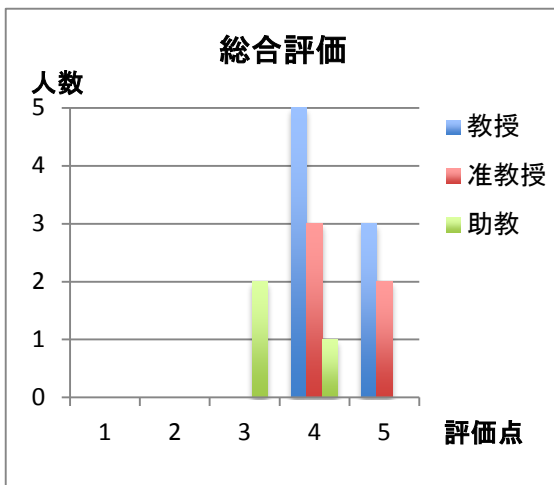
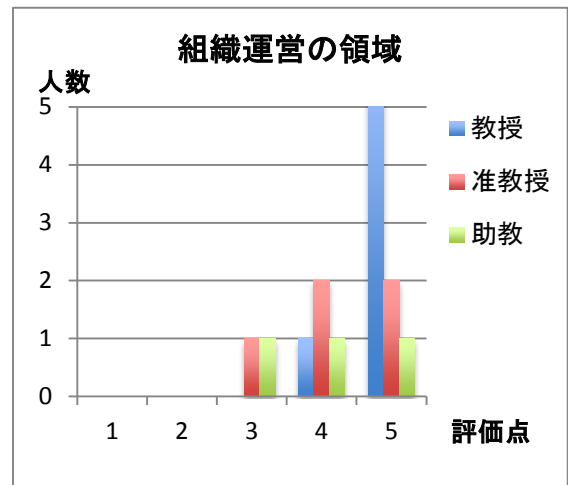
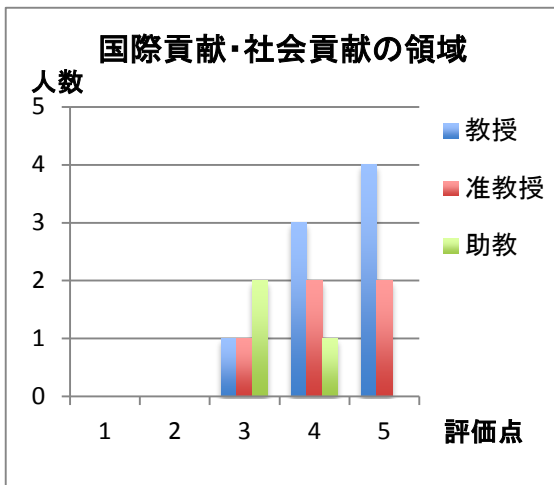
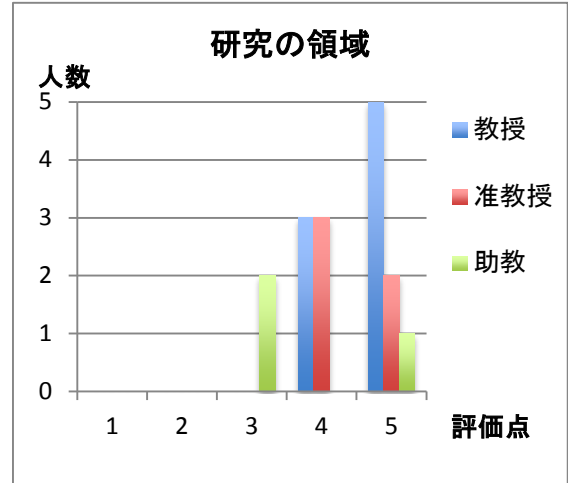
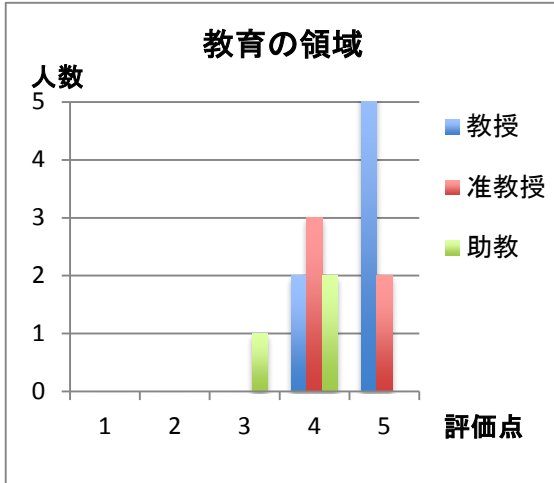
【数理科学専攻】



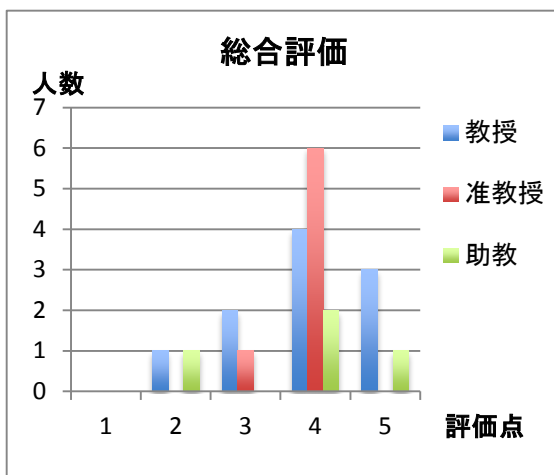
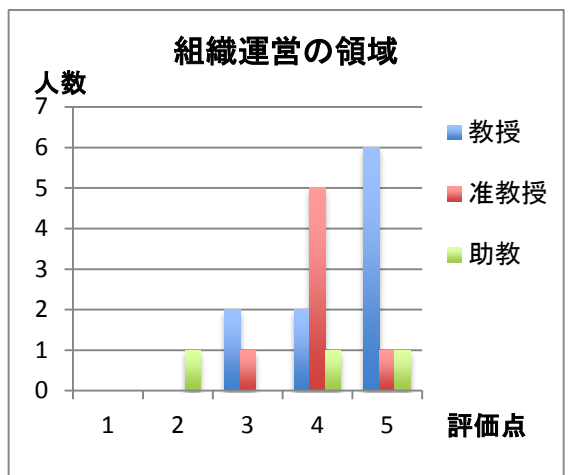
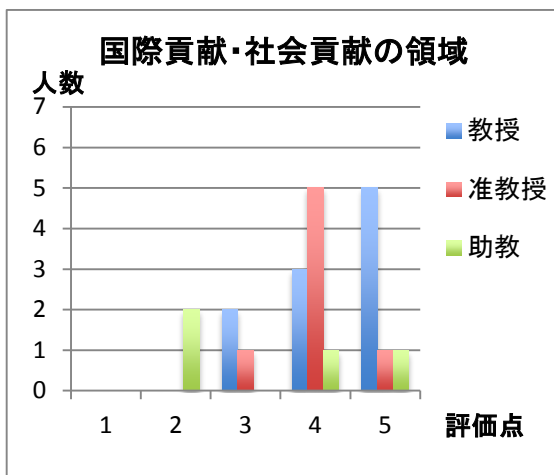
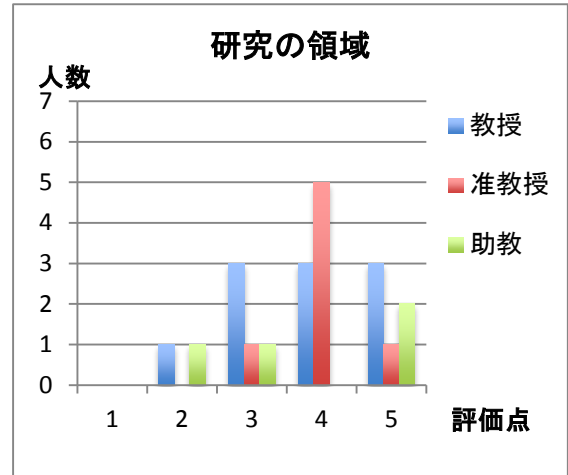
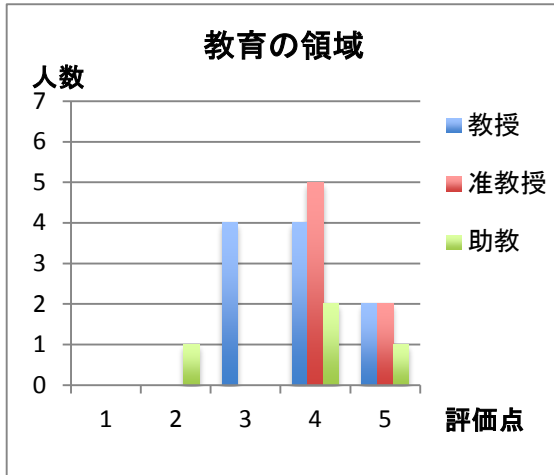
【物理科学専攻】



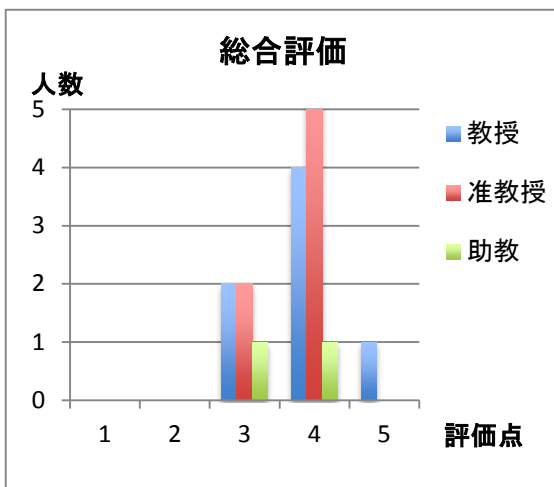
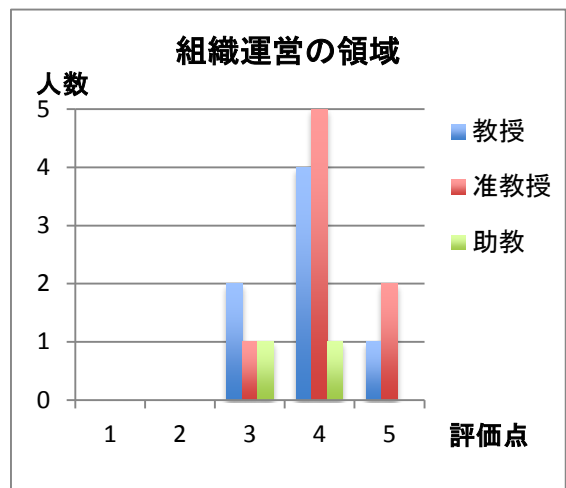
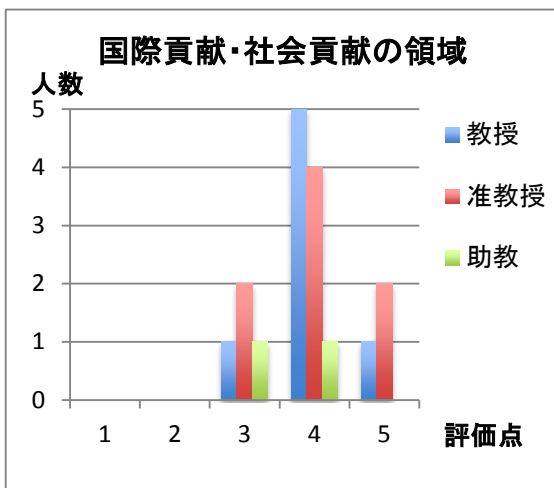
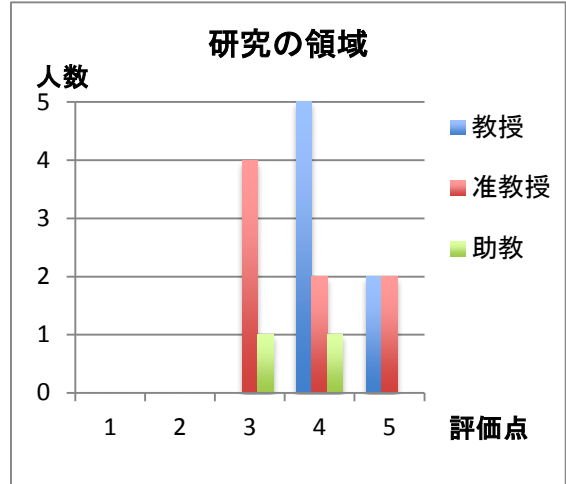
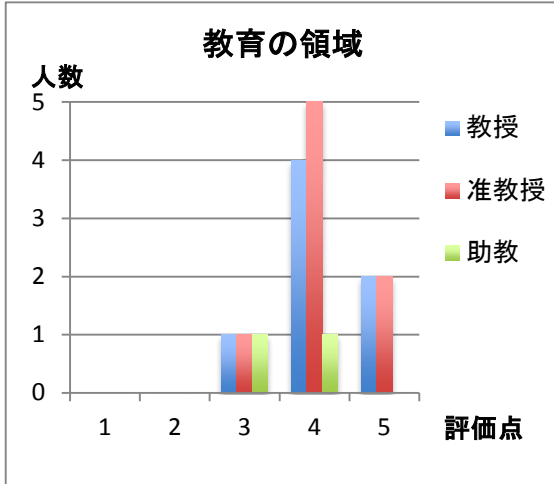
【知能情報システム学専攻】



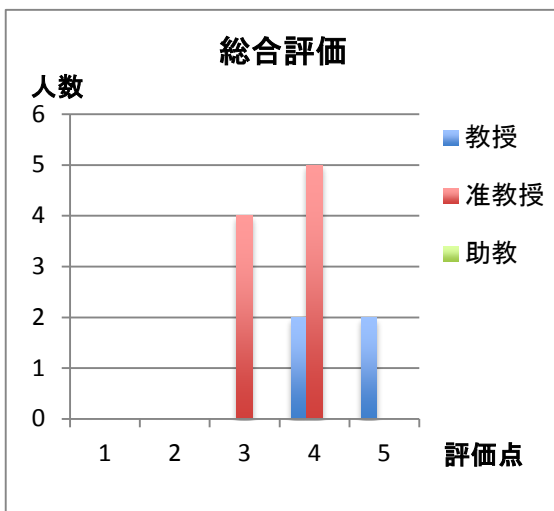
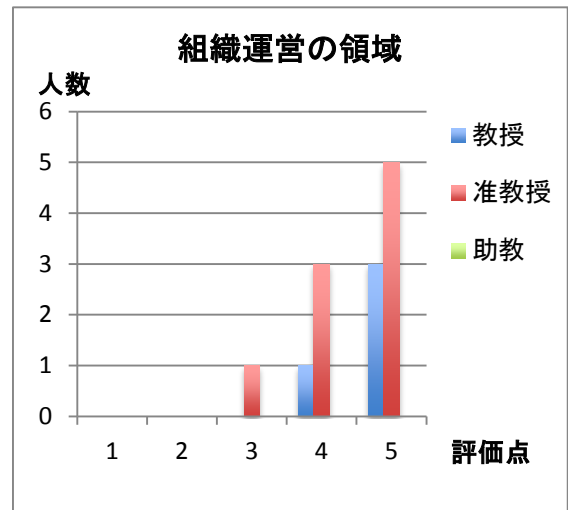
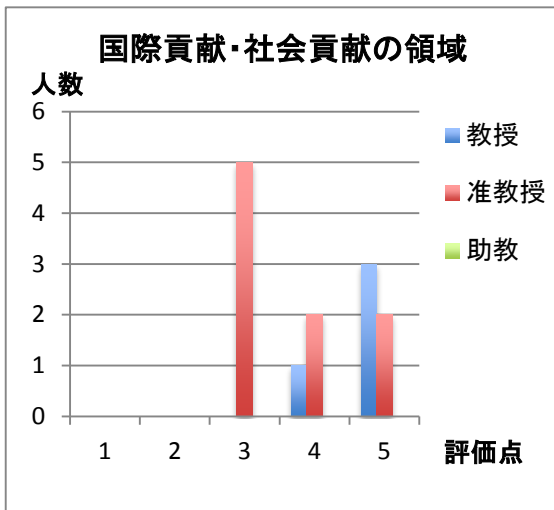
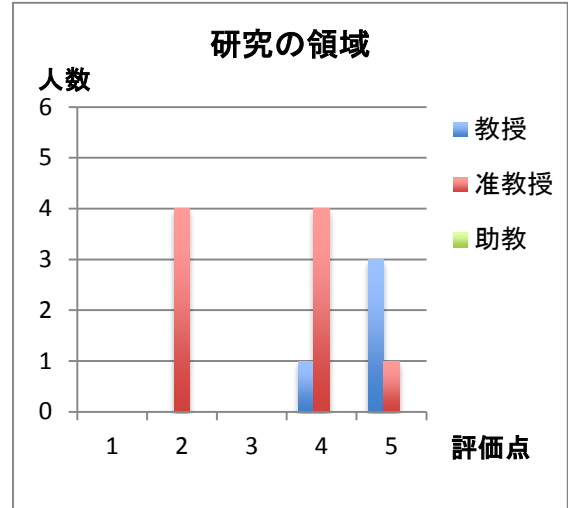
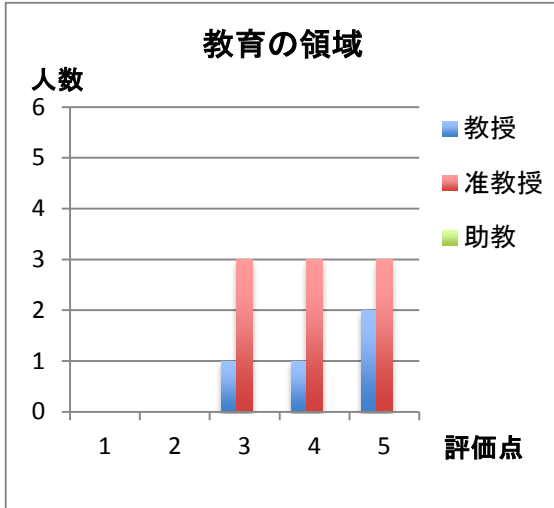
【循環物質化学専攻】



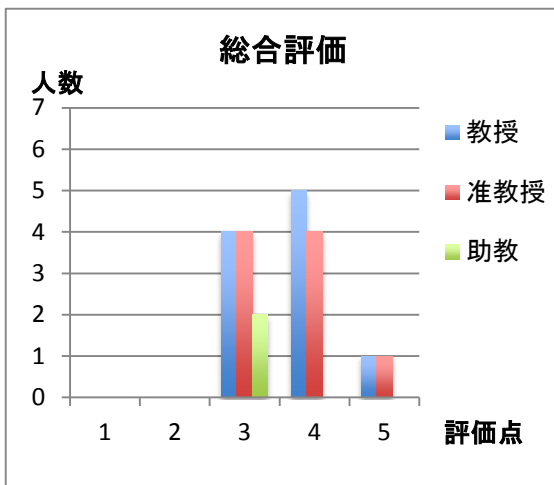
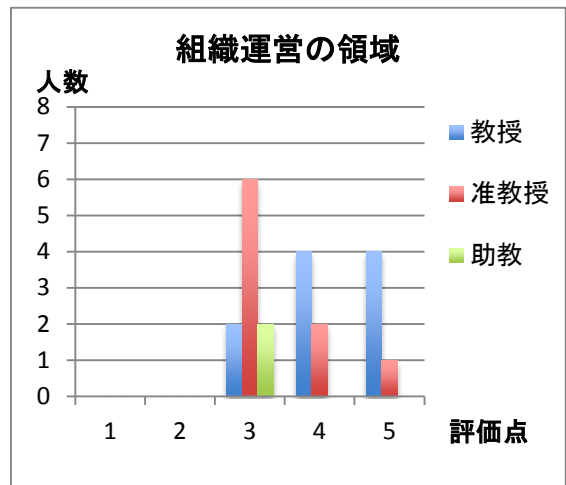
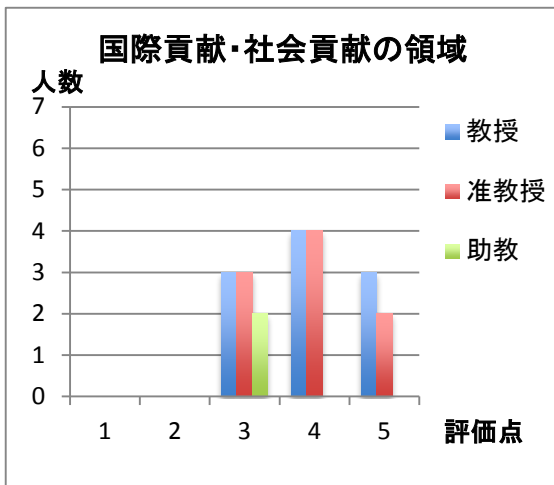
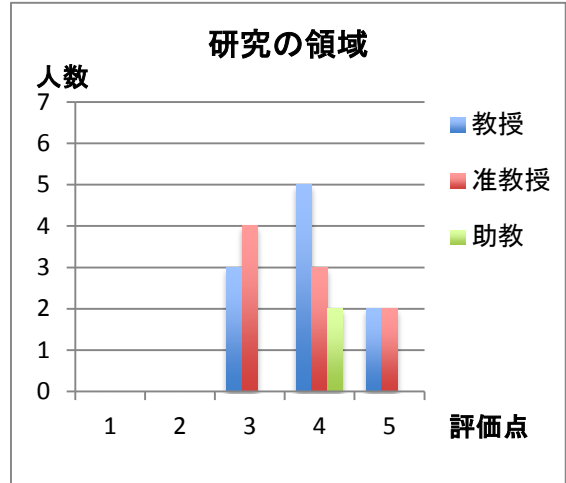
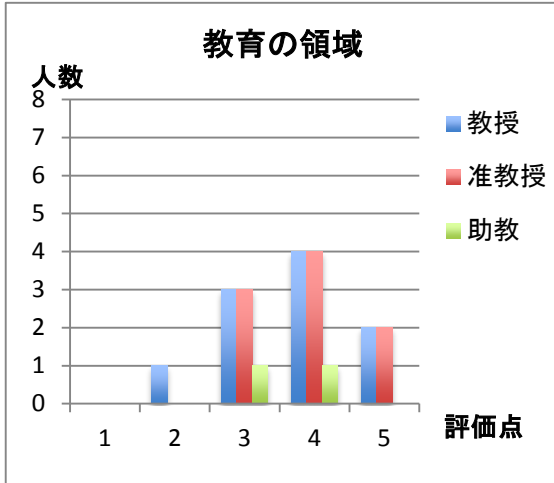
【機械システム工学専攻】



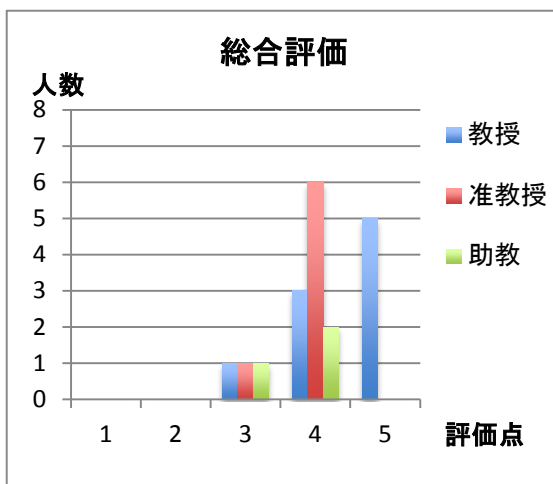
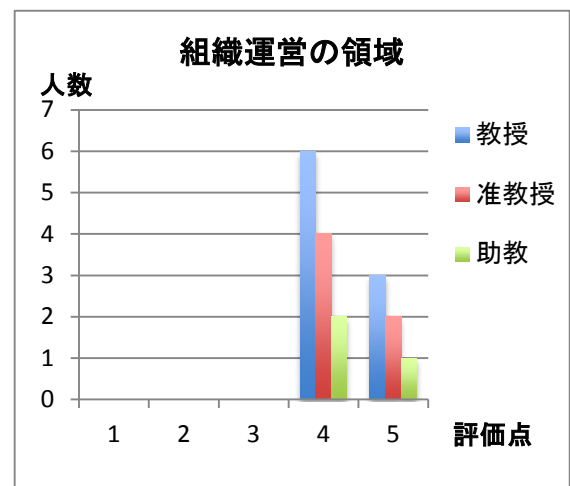
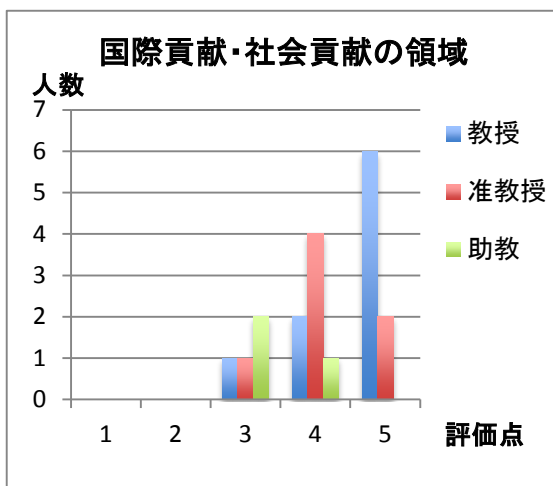
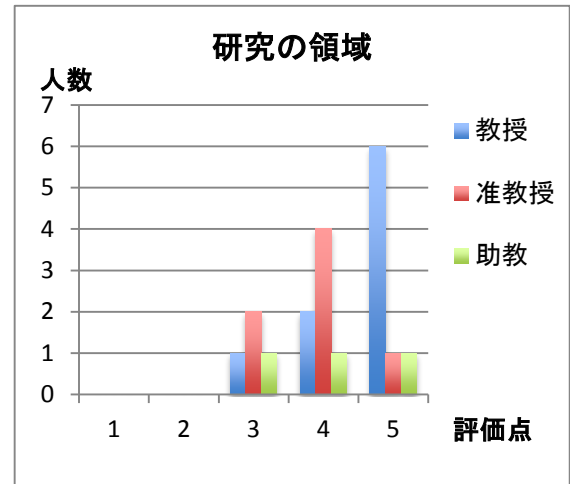
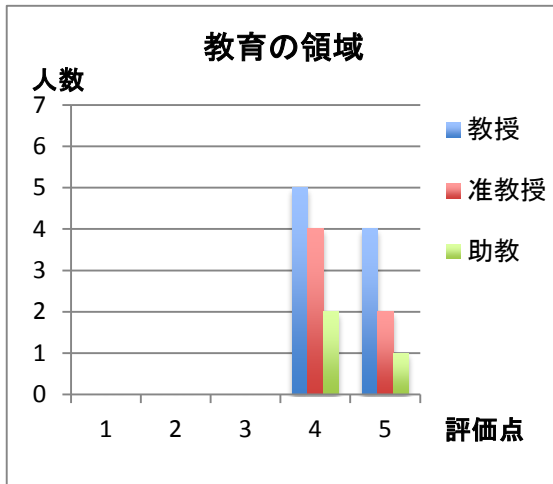
【電気電子工学専攻】



【都市工学専攻】



【先端融合工学専攻】



4.3. 評価委員からのコメント

各専攻の評価委員からのコメントを以下にまとめる。

【数理学専攻】

1. 各教員が真摯に研究及び教育活動を行い、高い科研費採択率や入試問題作成などにおいて、本学・本研究科に貢献している。自己評価はおおむね妥当である。また過去の年度と比較して、国際研究集会での講演や中期計画推進経費の採択など、研究面での向上がみられる。

【物理学専攻】

1. 教員は、それぞれが工夫して教育改善に取り組んでいる。また、自宅学習のための課題を用意するなど、学習時間を増やす努力が行われている。教養教育など全学的な教育にも大きな貢献をしている教員がいる。ただし、一部の教員に過重負担のおそれがみられる。
2. 研究活動については、論文数などが少し減少しているが、概ね高いアクティビティを維持していると思われる。学生（院生）による学会発表なども定着してきており、研究の高いアクティビティが教育の活性化にもつながっている。若い准教授層の教育負担を減らすなどの研究支援を行っている。
3. 社会貢献や国際交流の活動も継続されている。また専門性を活かして SSH 事業にも貢献している。
4. 組織運営については、一部の教員が大学や学部など運営に重要な役割を果たしている。専攻は、重い運営業務をになっている教員の専攻内の負担を減らすなどの支援を行っている。
5. 健康上の理由で十分な活動ができなかった教員については、専攻内の支援もあり、徐々に復帰しつつある。

【知能情報システム学専攻】

1. JABEE の認定を受けて 10 年以上が経過し、JABEE の活動を通じて教育改善の PDCA サイクルが良好に機能し、教育効果を挙げている。平成 26 年度には継続審査を受けるということもあり、教育改善委員会が平成 25 年度には例年より多く開催され、教育改善へ向けた議論が活発に行われた。また、受動的な教育から主体的な学びへの転換を図る取り組みも行われるようになった。
2. 教授・准教授の研究活動は順調である。
3. 助教の研究活動が低調である問題は依然として解決していない。今後、専攻内で研究テーマごとに助教も加わった形で組織的に研究組織を作り、専攻全体の研究活性化を通じて助教の研究活動の活性化を図ることも一案と考える。

4. 教員の退職が、今年度末にあり、工学系研究科の改組へ向けた取り組みも行われている。これらを見据えたカリキュラムの見直し、人事計画等が喫緊の課題である。

【循環物質化学専攻】

循環物質化学専攻では、教員個人が教育、研究、国際貢献・地域貢献、組織運営の各領域においてバランス良く優れた成果を上げており、専攻として優れた貢献をしていると評価できる。

1. 学部教育においてはJABEE認定プログラムを継続し、質の高い教育を行っている。機能材料化学コースでは、JABEE認定の継続審査における6年認定を受けた実績を維持しており、物質化学コースにおいても材料化学コース同等の教育体制を構築して差異の無い充実した教育体制を整えている。また、各教員の授業改善に対する意欲も旺盛である。大学院教育においては、博士前期課程のみならず、博士後期課程においても多くの学生を指導しており、着実な教育・研究成果を上げている。博士課程の学生に対する研究を通じた教育の成果は学会での受賞や学生自身の執筆による論文発表などに反映されている。
2. 研究においては、多くの教員が主に査読付きの英文誌に論文発表をしており、発表論文の中にはIF値が極めて高い雑誌への発表も含まれており、研究の質の高さが伺える。また、多くの教員が学科、研究科、学部間で連携し、共同研究を行い、学長経費や研究科長経費、連携大学院共同研究費を獲得している。これらのシーズ研究の内部資金としての支援によって、次年度以降の外部資金獲得に向けて活動中である。さらに、市・県・官庁、他大学、民間企業と共同研究や受託研究を行い、外部資金を獲得して成果を上げており、専攻として優れた研究分野での貢献をしていると評価できる。
3. 国際貢献については、多くの研究者が国際学会への参加・発表を行う中で海外の研究者との研究交流を活発に行っている。また、国際学会の運営委員を務めたり、海外の大学との共同研究も開始されている。研究科の支援による国際パートナーシッププログラムや国際化推進事業（外国人研究者招へい事業）にも積極的に専攻として貢献している。地域貢献については、地域の研究アドバイザーとして講師を務める教員や、佐賀県や九州地区の理科教育への協力、佐賀地域の理科・科学振興のための事業への参画など、多くの教員が地域貢献に尽力している。社会貢献としては、多くの教員が学会の主要な委員を務めたり、非営利団体と連携するなどして、学会活動等にも努めている。このように、国際・地域・社会貢献にバランス良く活躍しており、優れた貢献をしていると評価できる。
4. 組織運営については、全学、研究科、専攻において本専攻教員は幅広く組織運営の責務を果たして活躍しており、また過剰と思われるほど多くの教員が重責を担う役職任務を遂行しており、貢献度は極めて高いと評価できる。また、当専攻はその学

問的基盤によりエコアクション等の安全管理にも学内で先導的活動を行っている。

【機械システム工学専攻】

1. 機械システム工学科の教育プログラムは日本技術者教育認定機構の JABEE 認定を受けている。この認定プログラムは継続的な点検・改善を必要とし、定期的に日本技術者認定機構による審査が行われるが、直近では平成 22 年 10 月に継続審査、平成 25 年 10 月に中間審査が完了した。この事実は当学科で質の高い教育が保証・維持されていることの証左であり、教員の日々の研鑽により導かれた結果といえる。
個々の講義に関しては、定年退職や定員削減などで教員一人当たりの担当科目数が増える中、各教員が学科の目標に沿って学生を育成しようとする努力が垣間見られる。
2. 大学院教育に関しては、講義での専門知識の修得に加えて、丁寧な研究指導による学生の能力の向上が図られている。
3. 研究の面では、国内外の学会などでの論文発表が活発に実行されている。研究費については、科学研究費補助金だけでなく、共同研究や奨学寄付金、財団からの研究助成などの受け入れについても積極的に取り組まれている。これらの実績から、機械システム工学専攻の研究に対し民間企業等が強い期待を持っていることが分かる。
4. 社会貢献・国際交流では、学会等の役員および委員会委員として活動し、また講演会、研究会なども精力的に開催している。さらに、外国人研究者の受け入れや、国際会議においての情報交換も積極的に行なわれている。
5. 上記 1～4 と自己評価結果を勘案して、全ての教員は各自の活動の自己評価を適切に行なっていると判断する。

【電気電子工学専攻】

1. 2 年連続自己評価を提出しなかった教員に対して、昨年度来口頭で忠告を行ったが、忠告を真摯に聞くことなく、結局、研究科長の手を煩わせる結果になったが、提出した自己評価は、手前味噌の部分が多く、自己点検が極めて甘いものであった。また、表 4.1 に掲載されているものは、自己報告のままを掲載しているが、個人提出様式には、客観的に見ての再評価を行い、コメントした。
2. 年度計画に当たり障りのない事柄を挙げて、自己点検し、自己評価を高くする教員がいる反面、着実に目標達成しているのも関わらず、自己評価を下げている准教授、講師、助教がいた。
3. 昨年度の自己点検の実績を見せてもらい、学長が目指す「面倒見の良い大学」の教員としての目指すべき目標を次年度目標に掲げて貰いたいと思った。

【都市工学専攻】

1. 教育について
 - 学生の授業評価に基づき、小テスト、質問票、TA を用いた演習など学生の授業理解度を高める授業の工夫がなされ、授業の改善が図られている。
 - 授業のコマ数には教員によりバラツキがあり、より教育効果を高めるために教育負担をある程度は公平に保つことが求められる。
2. 研究について
 - 研究分野によることが原因であるかもしれないが、教員間で論文数にバラツキがある。しかしながら、ほとんどの教員は博士前期課程あるいは後期課程の指導資格を維持できている。
3. 地域・国際貢献について
 - 多くの教員が国や県の委員会や審査会などの委員として地域に貢献している。
 - 多くの教員がパートナーシッププログラム、外国からの教員・大学院生の受入、国際的共同研究などにより国際貢献を行っている。

【先端融合工学専攻】

1. 教育に関しては、評価点や達成率も高く、授業点検および授業点検評価報告を実施している。また、これらを基に授業改善を行っている。さらに、FD 講演会やティーチング・ポートフォリオ・ワークショップへ参加する等、教育改善に対する工夫と努力が見られる。
2. 研究に関しては、各教員が多くの研究成果を出している上、外部資金の獲得も多く、成果を挙げていると思われる。ただし、各教員の評価点や達成率にバラツキが認められる。
3. 社会貢献・国際交流に関しては、多くの学会や地域の協議会・審議会の役員等を務めている。評価点や達成率の平均値も高めの値であり、社会貢献や国際交流に対する理解と努力が感じられる。
4. 組織運営に関しても、全教員の積極的な関与が見られ、各教員の評価点や達成率も高い値になっている。
5. 個人評価は、各自達成目標を異にするため成果の評点を単純に比較することには無理があるが、教員はおおむね各自の活動の自己評価を適切に行っていると判断する。

平成 26 年度工学系研究科評価委員会委員

委員長	石橋孝治	(研究科長)
委員	萩原世也	(副研究科長・評議員)
委員	花本猛士	(副研究科長)
委員	服部信祐	(副研究科長)
委員	船久保公一	(研究科長補佐・佐賀大学評価委員会委員)
委員	帯屋洋之	(教務委員会委員長)
委員	中川泰宏	(数理科学専攻長)
委員	遠藤隆	(物理科学専攻長)
委員	皆本晃弥	(知能情報システム学専攻長)
委員	鯉川雅之	(循環物質化学専攻長)
委員	木上洋一	(機械システム工学専攻長)
委員	古川達也	(電気電子工学専攻長)
委員	井嶋克志	(都市工学専攻長)
委員	渡孝則	(先端融合工学専攻長)
委員	江口邦子	(工学系研究科事務長)